2022年度 事業報告書

社会福祉法人
松江福祉公社

2022年4月1日～2023年3月31日

目次

【事業報告】

法人本部 1

特別養護老人ホーム長命園 8

小規模多機能型居宅介護事業所
　長命園やくものお家 ２６

こばと保育園 ４０

放課後等デイサービスぽっぽ ５５

こばと小規模保育園 ６５

【基本理念】

私たちは「博愛」「共生」「福祉科学」を実践し、子ども・高齢者・障がい者など、人と社会の多様性を承認し、生涯発達と人権尊重を基本に信頼される社会福祉法人をめざします。

【基本方針】

Ⅰ．多様化する福祉ニーズに応じた法人運営をします。

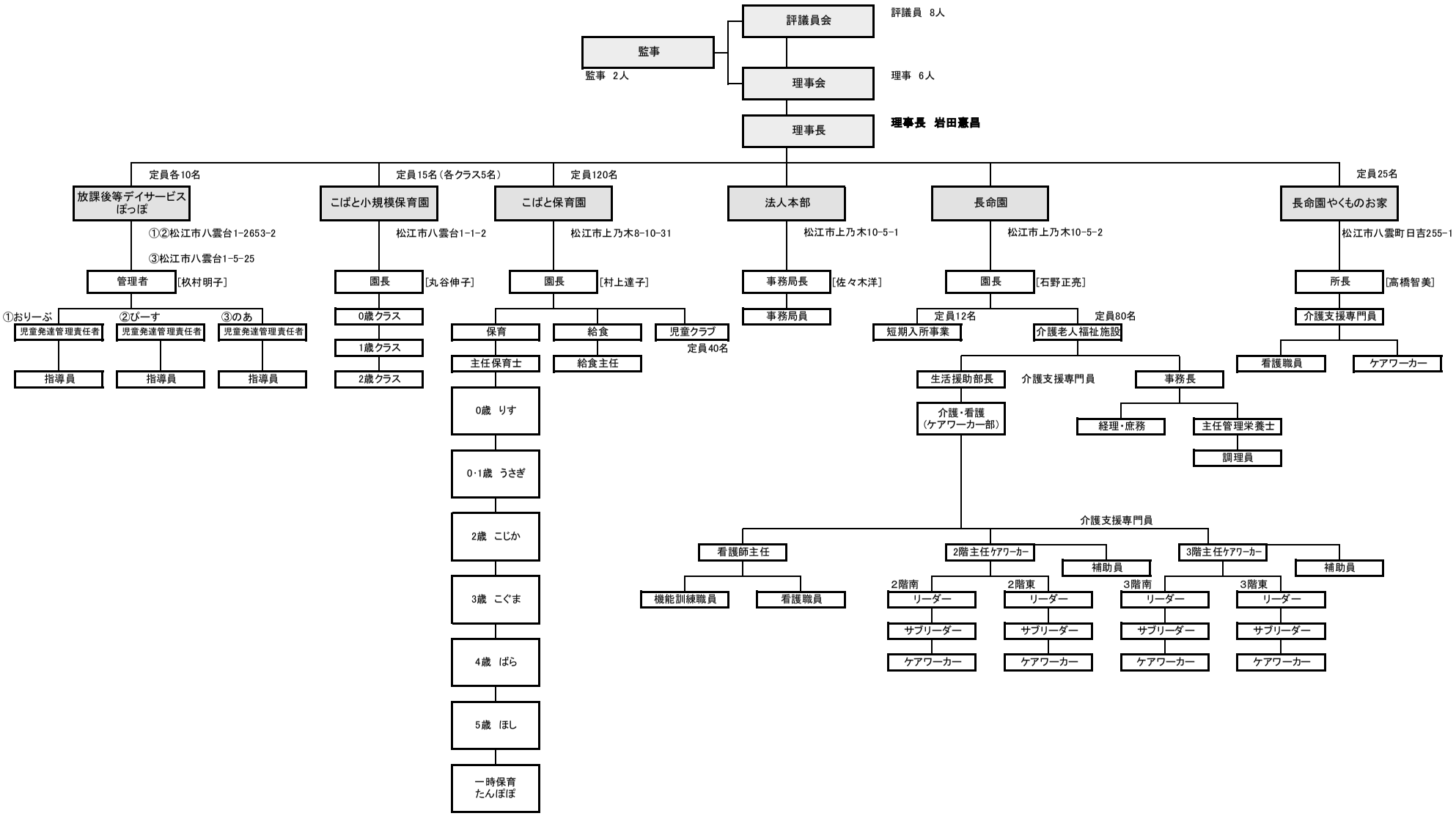
Ⅱ．広く地域社会と連携し、地域福祉に貢献する施設づくりをします。

Ⅲ．「科学的知見」を基に、それぞれの施設を活用する皆さんの安全と幸せに貢献できる施設にします。

Ⅳ．すべての法人職員は、日々、誠実な実践と学習・総括を行い、希望を拓く職場・組織づくりをします。

社会福祉法人松江福祉公社　法人組織図

2023年4月1日



法人本部

令和４年度事業報告

令和4年度 事業報告
社会福祉法人松江福祉公社

１．総括

本年度も昨年度同様に法人経営にとって厳しい状況であった。コロナ禍により人手不足に拍車がかかり、また石油・ガスなどの光熱費、資材価格といった物価高騰が経営を直撃した。この影響が長期化すれば法人運営に甚大な影響が生じるだろう。そのような中で労働市場は大企業における賃上げの満額回答が相次ぎ、引き続く中小企業などの回答が注目されてきた。社会福祉施設は、国が定める公的価格により経営するものであり、利用者の経済状況を鑑みれば物価高騰の影響を安易に利用料へ転嫁することはできず、経営努力のみで対応し続けることは非常に困難な状況となっている。行政の実効性ある対策が望まれる。

保育をめぐる情勢は、少子化の下で４月現在主要都市の待機児童は半減し、松江でも空き人数は５１４人と伝えられた。また、幼児の悲惨な死亡事故が多発し、原因は保育士の配置数が少ないことが指摘された。

高齢者の問題も全国で無届け施設を調査、６５６か所あり島根でも１か所、さらに届出のあった有料老人ホームは前年より６６８か所増えて１万５３６３か所と報じられ、制度の維持を理由にデイサービス２割負担の２０２３年度実施を先送り、老人福祉・介護事業の倒産が上半期で５３件と急増、７５歳以上の一定の収入がある人の医療費２割負担等々今後の課題、計画策定について示唆する事項もあった。

このような状況下で事業活動を行った結果

（１）この１年間は各施設の修繕や人員の確保・処遇改善など経営態勢の確立など次年度に向け展望を示すことができた。

（２）コロナ禍や物価の高騰など厳しい状況の下で、事業の継続を図ることができたことは役職員の協力と努力にあった。

（３）役員の改選期を迎えて理事、評議員の候補者の選出など次期体制の準備をすることができた。

２．法人本部運営報告

令和４年度も新型コロナウイルス感染症は終息せず、法人事業所においてもコロナ禍が始まって以来、最も大きな影響を受けた年となりました。一連の事業計画に基づいた行事や活動の変更・自粛、長引く見学や面会の制限を余儀なくされた。特に２０２２年４月以降の第７派ではこばと保育園、こばと小規模保育園、放デイぽっぽで感染が広がり長期の休所とするなど運営に大きな影響が出ました。続いて８月以降は長命園、やくものお家で立て続けにクラスターが発生し、入院者の増加、短期入所の受け入れ中止、

やくものお家も休所とするなど対応に追われました。こうした中で３事業所目を開設したばかりの放デイぽっぽは休所による大幅な減収となり、今期の収支予測を大幅に下方修正する事態となりました。

政府は２０２３年５月８日から新型コロナの感染症法上の位置づけを５類に引き下げる方針を示しましたが、引き続き感染への警戒は緩めず、しかし着実にコロナ前の日常に戻れるよう取り組んでまいります。

法人本部では今年度も他事業所と有機的に連携を図り、組織機能の強化に努めました。労働法制の変化に対応すべく顧問社会保険労務士と委託契約を結び対応にあたっていましたが、一定の成果が見込めたことと労務担当職員の習熟度の向上により当期末をもって契約満了としました。また、今期の事業計画に広報活動の一環として掲げていたホームページリニューアルは新型コロナの影響により施設内での写真撮影が困難な状況となり来期に延期としました。今後は広報活動が法人ブランディング、利用者へのＰＲ、求人対策の大きなツールとなるため来期早い時期にスタートさせたい。

財務状況としては、長命園、やくものお家、放デイぽっぽの３事業所はコロナの影響による減収が大きく響いた。また、円安・資源高を背景にした物価高騰も当面続くと予想されることから、更なるコスト圧縮の方策を検討しなくてはならない。こうした、コロナ禍の感染対策に加えて、諸経費の支出増が収支悪化に直結した一年であった。今後も各種補助金、助成金、保険を活用しながらコスト増の緩和を図っていきます。

少子高齢化、人口減少社会の到来や長期化するコロナ禍の影響により、社会や経済の状況が大きく変化しており、それに従い福祉ニーズも多様化・複雑化している。法人基本理念にうたう「多様化する福祉ニーズに応じた法人」とは何なのか？全役職員で考えていきたい。

※事業所運営については各事業所報告をご覧ください。

２．法人理事、監事、評議員

（１）役員、評議員（２０２３年４月１日現在）

役　職	定　数	氏　名
理　　事	6	岩田憙昌（理事長）、安部且彦、安部真理、錦織政代、石野正亮、高橋智美
監　　事	2	五十嵐惠子、美見昭光
評 議 員	8	安部紀正、高橋美夫、吉儀和平、舟越美幸、荒木伸子、山崎芙美子、田部修二、石橋俊夫

（２）就任、退任役員

就任・退任役員　なし

（３）理事会開催状況

開催日	審議内容	審議結果
令和４年度第１回	【報告事項】	

令和４年６月２日	理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第１号議案　２０２１年度事業報告及び計算書類等の承認の件 第２号議案　規程改定の件 第３号議案　老人保健生活協同組合代表清算人からの寄附受領承認について 第４号議案　定時評議員会招集の件	 可決 〃 〃 〃
令和４年度第２回 令和４年８月３１日	【報告事項】 理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第１号議案　放デイぽっぽ経営状況について 第２号議案　長命園屋上補修工事に伴う設計工事業者の選定の件 第３号議案　長命園屋上補修工事に伴う契約締結方法並びに工事業者選定の件 第４号議案　長命園屋上補修工事による修繕積立金取崩の件 第５号議案　２０２２年度第１次補正予算（案） 第６号議案　こばと保育園、こばと小規模保育園給与規程改定について	 可決 〃 〃 〃 〃 〃
令和４年度書面決議 発出日：９月２３日 決議日：９月２６日	【決議事項】 第１号議案　長命園屋上等補修工事入札結果並びに工事請負契約書締結の件	 可決
令和４年度第３回 令和４年１２月７日	【報告事項】 理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第１号議案　放デイぽっぽ経営状況、次年度人事 第２号議案　次期役員改選の件 第３号議案　２０２２年度第２次補正予算（案） 第４号議案　規程改定の件 第５号議案　社労士業務委託契約解約の件	 可決 〃 一部否決 可決 〃
令和４年度第４回 令和５年１月１７日	【報告事項】 理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第１号議案　第２次補正予算一部修正（案） 第２号議案　次期役員改選の件 第３号議案　評議員選任・解任委員会の選任 第４号議案　規程改定及び新設 第５号議案　臨時評議員会招集の件	 可決 〃 〃 〃 〃
令和４年度第５回 令和５年２月１０日	【決議事項】 第１号議案　次期役員改選の件	 可決
令和４年度第６回	【報告事項】	

令和５年３月３０日	理事長の職務執行状況の報告 【決議事項】 第１号議案　役員等賠償責任保険契約の件 第２号議案　２０２３年度取引業者高額契約に係る承認の件 第３号議案　規程改定及び新設 第４号議案　２０２２年度第３次補正予算（案）承認の件 第５号議案　２０２３年度事業計画（案）及び当初予算（案）承認の件 第６号議案　次期評議員選任候補者（案）承認及び評議員選任解任委員会の招集	 可決 〃 〃 〃 〃 〃

（４）評議員会開催状況

開催日	審議内容	審議結果
令和４年度定時評議員会 令和４年６月１９日	【報告事項】 ・２０２１年度事業報告の件 【決議事項】 第１号議案　２０２１年度計算書類及び財産目録等の承認の件	可決
第１回臨時評議員会 令和５年３月３０日	【報告事項】 ２０２２年度業務執行状況及び財務状況 【決議事項】 第１号議案 役員報酬規程改定の件	可決

（５）法人監事監査結果

令和４年５月１９日に当法人監事による令和３年度事業報告及び計算書類の監査を実施し、適正処理の報告を受けた。

（６）法人主要事業経過報告

月　日	業　務
4 月 1 日	辞令交付式
4 月 25 日	社労士相談会
5 月 7 日	2021 年度最終安部税理士事務支援監査
5 月 9 日	安部税理士決算監査
5 月 19 日	法人監事監査
6 月 2 日	第1回理事会
6 月 8 日	改正育児介護休業法 社労士説明会
6 月 19 日	2022 年度定時評議員会
7 月 22 日	社労士相談会
8 月 12 日	安部税理士 2022 第 1 回事務支援監査

8 月 31 日	第 2 回理事会
9 月 23 日	理事会書面決議発出
10 月 27 日	安部税理士 2022 第 2 回事務支援監査
11 月 4 日	第 1 回施設長会
11 月 15 日	松江市法人指導監査
12 月 7 日	第 3 回理事会
1 月 27 日	安部税理士 2022 第 3 回事務支援監査
2 月 10 日	第 5 回理事会
2 月 27 日	第 2 回施設長会
3 月 26 日	第1回臨時評議員会
3 月 30 日	第 6 回理事会

（７）研修会等参加状況

月　日	研修名	用務地	参加者
5 月 10 日	社会福祉法人連携推進制度のポイント	WEB	佐々木
8 月 17 日	令和 4 年度BCP策定推進セミナー	WEB	佐々木
9 月 22 日	会計処理のポイントと経営指標	WEB	大瀧
10 月 14 日	R4 福祉サービス苦情解決研修会	WEB	村上、佐々木
動画配信	社福会計実務研修「入門」「初級」	WEB	石野
動画配信	R4 社福監事研修	WEB	佐々木
1 月 20 日	70 歳就業確保措置導入支援セミナー	合庁	佐々木、佐藤
1 月 26 日	R4 障がい施設経営セミナー	WEB	戸田
1 月 30 日	R4 保育施設経営セミナー	WEB	村上
2 月 15 日	R4 高齢者施設経営セミナー	WEB	高橋
3 月 7 日	特養建替えを想定した予算計画講座	WEB	佐々木

（８）法人借入金償還状況（元金のみ 単位：千円）

借入先	当初借入額	償還済額	当期減少額	借入残高	備考
(独法)福祉医療機構	102,700	31,276	6,912	71,424	こばと保育園新園舎建設借入金

（９）法人財務分析指標

①法人全体の純資産

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
866,049千円	895,377千円	895,184千円	904,086千円

②事業収入（サービス活動収益計）

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
591,926千円	683,734千円	663,002千円	683,147千円

	（千円）	2020年度	2021年度	2022年度
事業所別	長命園	374,889	364,481	358,537
	やくも	50,344	39,123	44,317
	こばと	184,500	173,279	183,067
	ぽっぽ	41,284	43,916	53,342
	小こばと	32,391	40,807	43,827

③経常増減差額率（経常増減差額÷サービス活動収益計）

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
3.0%	7.6%	2.8%	4.2%

法人の収益性を表す基本的な指標。同規模法人の平均的数値は約2.5%程度。

	（%）	2020年度	2021年度	2022年度
事業所別	長命園	8.3	6.0	2.9
	やくも	-2.7	-22.3	-1.6
	こばと	8.0	4.9	9.6
	ぽっぽ	8.5	-0.6	7.4
	小こばと	13.5	26.8	28.7

④人件費比率（人件費÷サービス活動収益計）

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
74.3%	70.4%	74.7%	74.8%

本指標の値が収益性に大きく影響します。安定的経営のためには固定費に関する比率である本指標の値を適宜分析する必要がある。

	（%）	2020年度	2021年度	2022年度
事業所別	長命園	67.8	70.0	73.6
	やくも	80.1	96.6	80.6
	こばと	71.4	74.5	71.3
	ぽっぽ	75.8	81.4	78.1
	小こばと	71.5	61.8	63.3

⑤事業費比率（事業費÷サービス活動収益計）

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
13.8%	13.2%	13.4%	13.7%

事業費は、給食や介護用品など、利用者へのサービス提供に直接要する経費を表す変動費。

	（%）	2020年度	2021年度	2022年度
事業所別	長命園	15.5	16.5	18.1
	やくも	14.2	16.4	14.2
	こばと	9.8	9.2	8.6
	ぽっぽ	9.1	9.0	8.5

	小こばと	9.6	4.8	4.3

⑥事務費比率（事務費÷サービス活動収益計）

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
6.1%	6.0%	6.1%	5.4%

事務費は、修繕費、業務委託費、賃借料など、施設運営に要する一般管理費的な経費（人件費を除く。）を表す。

	（%）	2020年度	2021年度	2022年度
事業所別	長命園	6.1	5.2	4.5
	やくも	4.0	4.3	3.6
	こばと	6.3	6.2	5.7
	ぽっぽ	5.4	9.0	5.8
	小こばと	5.1	6.4	4.5

⑦流動比率（流動資産÷流動負債）

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
483.2%	550.4%	576.0%	550.5%

本指標は、短期的な支払能力を判定する観点から、一般的に本指標の値が200%以上であることが望ましいと考えられる。

	（%）	2020年度	2021年度	2022年度
事業所別	長命園	786.4	896.6	909.5
	やくも	1430.2	362.0	1782.6
	こばと	185.9	214.9	232.1
	ぽっぽ	211.3	137.1	88.1
	小こばと	427.4	1072.0	1114.6

⑧純資産比率（純資産÷総資産）

２０１９年度	２０２０年度	２０２１年度	２０２２年度
83.5%	84.6%	85.5%	86.4%

本指標の値が高いほど負債の支払負担が小さく、長期持続性が高いことを意味する。同規模法人の平均的な数値は約70%程度。

	（%）	2020年度	2021年度	2022年度
事業所別	長命園	94.9	95.1	95.1
	やくも	99.0	94.9	99.2
	こばと	73.0	74.6	76.4
	ぽっぽ	-2.1	-20.0	-2.1
	小こばと	48.6	91.9	95.3

特別養護老人ホーム長命園

令和４年度事業報告

2022（令和 4）年度

特別養護老人ホーム長命園　事業報告

長命園基本理念

「豊かな生活援助」

どのような疾病、障害があっても発達の可能性がある。その可能性を引き出し援助するという基本理念に基づき、原点に立ち返り利用者一人ひとりの権利擁護者としての自覚を持って援助します。

はじめに

新型コロナウイルス感染症の第 6 波以降、松江市内でも感染者が急増し連日高齢者施設でのクラスターが報告されました。第 8 波は年末年始とも重なり、市内の医療機関ではコロナ病棟がほぼ満床になるなど切迫した状況になりました。当園においても 1 年を通してコロナに関係する欠員と勤務調整に奔走し、8 月に初めてのクラスターを経験してから下半期は全てコロナとの戦いとなり利用者、職員、施設の運営に大きな影響を受けました。

新型コロナは原則入院であったはずが原則施設内療養に書き換えられ、治療の場ではない高齢者施設が脆弱な医療体制の受け皿として利用されています。施設内療養中の急変や ADL 低下のリスクが大きい高齢者にとっては適切迅速な医療が不可欠です。感染症法上の位置づけが令和 5 年 5 月から 5 類に移行し規制や対応が緩和されることで、これまで以上の感染拡大も予想されており、園内への侵入を防ぐ事は前提ではあるが 0 にすることは困難です。感染拡大と長期化を防ぎ、利用者への影響を最小にすることを目的とした感染症対策が求められています。

2022（R4）年度の重点項目

○新型コロナウイルス等の感染症の予防や蔓延防止の対策を講じ、事業の継続性の確立と利用者の健やかな生活を支援します。BCP（事業継続計画）の策定と委員会による随時の更新を実施します。

・年度内での作成としていましたがクラスターを経験し不足箇所が明らかとなりました。また、感染状況や国内情勢の変化に対応するため、令和 5 年 9 月を一旦の完成目標として作成しています。完成後も委員会等で検証、更新を行います。

○利用者の尊厳を第一として身体的拘束等の廃止、高齢者虐待防止に係る取り組みを実施します。

○事故防止の研修と日々の業務の中で危険予測を行います。事故の再発防止に向け実効性のある手段を講じます。

○施設内研修の充実と年間計画を策定。業務として WEB 研修や施設外研修への派遣を行います。研修参加者の報告会実施と現場業務へのアウトプットを施設全体でフォローします。

・e ラーニングの導入により全職員が均等に研修受講できました。また研修で得た知識をケアの根拠として活用する職員や委員会活動に利用する場面もありました。

○速やかな入所案内と、一つひとつのケアを見直し入院者数の減少により特養稼働率 97%、短期入所稼働率 75%以上を達成します。施設建て替えを前提とした収支バランスの見直しを随時行います。

・特養 91．32%　7 月まで稼働率は上昇していたが 8 月以降はクラスターの発生により入院者が増加しました。短期入所事業 52．7%　クラスター発生により、短期入所居室の多床室、個室を感染対策として使用したため長期間利用をお断りした。また、市内感染者数の増加と比例しキャンセルを受ける事例も多数あったため稼働率は低迷しました。

その他詳細については、各部署の報告に委ねます。
1．ケアワーカー　2．介護支援専門員　3．生活相談員　4．医務室　5．給食室
6．事務部　7．短期入所事業

1．ケアワーカー

生活面について

令和 4 年度はコロナウイルスが昨年に増して流行し、長命園でもクラスターが発生するなど、利用者の心身に大きな負担をかけてしまう一年となった。感染した利用者はもちろん、その他同一フロアに生活している利用者にも感染予防策のための居室生活が続き、その長期化、他者との隔離、面会の制限、入浴の中止、介護者の不足等により ADL の低下、皮膚トラブル、転倒事故も通常生活時より多く発生してしまった。

企画していた行事やレクリエーションの中止により、年間を通して楽しみを提供することがほとんどできなかった。しかしその中でも、クリスマスに職員の企画した長命ラジオ放送は隔離生活中の利用者全員に向けた新しい試みであり、多くの利用者から喜びの声があったので、新しい形の楽しみの提供方法であったと思う。

クラスター発生により、職員も感染し多数の欠員が出る中で、ゾーニングのための居室移動、ガウンテクニック、消毒等の感染予防を行いながらケアに従事した。心身ともに疲弊する中でも互いに協力し収束を迎えることができた。今後の課題としては、ウイルスを持ち込まない予防策はもちろん、園内での感染が拡大長期化しないように感染予防対策の検証、見直しを都度行っていきたい。

人権を守る取り組み

・身体拘束をせざるを得ない事例も昨年同様一件あり、身体拘束廃止委員会にて話し合い、ワーカー、医療と連携しながら廃止に向けた取り組みを行っている。身体拘束廃止、高齢者虐待防止については、ｅラーニングを活用して身体拘束廃止、虐待防止の意識と取り組みを学習した。今後もワーカー会議を通じて意識向上をしていく。

リスクマネジメントについて

・各種マニュアルに沿って対応することを心がけた。コロナウイルス感染症予防に関するマニュアルについては、改善点を都度見直し更新をしている。今後 5 類感染症へ移行され、行政の対応が変わってくるが、園としての対策、対応について全職員に周知し理解して行動できるようにする。
・事故報告書については、三つの事故要因の視点から、グループ内で再発防止策を考え実施している。今年度はコロナウイルスの影響にて、グループ会議が開催出来ず、書面でのやりとりとなり、グループ職員間の情報共有、意識の統一が困難であった。
・誤配薬については、別の利用者のお膳を持っていってしまい誤薬をしてしまう事故があった。思い込みによる配膳間違い、誤薬を防ぐため利用者をしっかり確認しての声出し確認を行い、周りの職

員もチェックする意識を持つことで配膳間違いや誤薬が起こらないようにしていく。

居室担当制の充実

・利用者の代弁者としての役割を果たすことが特に重要である。ご家族との関わりが少ない中、もっと一人一人の声を聞く機会を作る必要があったと感じる。居室担当者は担当利用者の思いに気づき、発信する事に力を入れてほしい。

家族との連携

・コロナウイルスの流行のため、利用者家族との関わりが殆ど無い状況にあるため中々連携を図ることが難しかった。日々の様子を手紙や誕生カードにて報告し、また、連絡の必要な際や、家族からの連絡があった際には近況報告に努めたい。

終末ケアについての取り組み

・看取りの方の思いをくみ取り、尊重した日々の生活を継続することが必要である。その点では担当グループ職員は良く相談しながら、また長命園看取り介護ガイドラインに沿って、利用者にとってよりよいケアを目指して関わっていけたと思う。家族との直接の関わりがないため、時には相談員を通して意思疎通をはかるよう努めた。

接遇について

・ｅラーニング研修を受け、介護職員接遇マニュアルに沿った対応を行った。受容、傾聴、共感を心にとめ、ケアを行うよう心掛けた。

職員の健康管理

・体調不良時には、すぐに相談してもらうことで、検査や受診などの対応を行っていたが、コロナウイルスの利用者への感染を防ぐことは出来なかった。インフルエンザ、感染性胃腸炎に関しては、職員本人や家族が罹患することはあったが、利用者へ感染することはなかった。

職員の育成について

・コロナウイルスの影響で、外部での研修機会がなく、オンラインでの研修もあったが、環境が整っていないと参加が難しいこともあり、ｅラーニングでの学習が主となってしまった。ワーカー会議を開催することも難しかったため、ワーカー同士の認識の統一やマニュアルに沿った対応を改めて確認する機会も作れなかった。

実習生の受け入れ

・トリニティーカレッジ３名

2. 介護支援専門員

＜ケアプランについて＞

・新型コロナウイルス等の感染対策から、担当者により実施されたモニタリングを基に、書面での会議となり、職種間での情報の共有等苦慮した。

・年４回の見直し、介護保険更新後アセスメント、状態変化の激しい利用者の状況や体調に応じた（退院時等）ケアプラン作成とした。

・家族説明・同意については、郵送でお願いした。

施設内で解決せず、家族・地域を含めたケアを提供するようプランニングしたが、コロナ禍においてボランティアの受け入れや直接の家族面会ができないため実施できなかった。書面または電話で家族の意向を聞き出し、その人らしい生活に近づけるように状態の維持・向上に努め、「利用者主

体、自立支援、家族支援、専門職の連携」を忘れず、策定した。

＜家族会について＞

・６月「介護サービスに関するアンケート」を実施。
意見や要望を基に利用者の日常生活や園全体の資質向上に取り組んだ。

・メール登録の実施。最新情報をメール送信にて報告した。

3. 生活相談員

＜適正なベッド管理・入退所管理＞

・「長命園入所基準」に基づいて、入・退所検討委員会を開催、　公平性・透明性・緊急性を図るため、入居評価基準に基づき判定した。入居申し込み時の評価基準に基づき判定２６人の新入所者を迎えた。３月末現在平均介護度は４．０７、介護度ⅣとⅤは全体の約９割を占めている。

・今年度の入院については、平均入院者数は６名だった。１１月は新型コロナウイルス感染拡大により多数入院することとなった。また体調不良入院にて急性期治療終了後、退院とならず転院後退所となる方も多く見られた。長期入院にならないよう、早めに病院や家族に連絡し情報収集に努め、退所後の空床期間を最小限になるよう努力した。新入所者受入についても、待機者減少状況続いており案内者ゼロの時もあり、急性期病院に連絡依頼し入所に繋げた。昨年に比べ２３９人（延べ人数）減となった。今後も、早めの対応に心掛け空床期間を最小限になるよう努力します。

・退園総数は２７人。

＜苦情相談＞

・４月５日第三者委員報告は書面報告。

〈総評〉大きな事故もなく安定した運営がなされている。苦情記録を読むと、日常生活の中で家族との連絡不備や確認不足が発生しているように見受けられる。家族と信頼関係を保ち、利用者の方が安心して生活するために、今後は家族との連携を深め職員同士の確認の仕方を改めて周知されることを望みます。

＜身体拘束について＞

・今年度実施者は１名でした。

身体拘束廃止委員会～毎月実施

身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に向け討議実施、廃止に向け取り組みを行った。

次年度も、安易に適応することなく、利用者の権利とサービスの質の向上を目指すと共に、ご家族にも、行動制限しないケアの意識啓発と理解を求めるよう働き掛け、身体拘束を防ぐための取り組みを行います。

＜リスク管理＞

・本年度、ヒヤリハット事故１２０件、事故報告１４８件、松江市事故報告２１件

新型コロナウイルス感染対策にて、長期の隔離（居室生活）による認知機能の低下、せん妄、ADL の低下、フレイル状態の悪化等、様々な影響をきたした。居室安静中に転落・転倒骨折事故が発生した。感染対策中の対応について精査し事故防止に努めた。

今後も事故防止の研修と日々の業務の中で危険予測を行い、事故の再発防止に向け事故報告書をもとにした事故の原因分析を具体的な事例をもとに行います。

＜看取りについて＞
・今年度、６人の方の看取り介護をおこなった。面会制限中だったが、可能な限り家族の希望を聞き後悔の無いよう配慮した。本人らしさを尊重した日々の生活を継続し、最期まで本人と家族の望みをかなえながら、安らかな最期を迎えることができるように、各部署との連携等行った。また家族の不安軽減に努めるよう心掛けた。
・看取り介護終了後カンファレンス書面にて実施した。
・年１回学習会（e ラーニング研修）
今後も人生最後の貴重な時間に関わることが出来る私たちの仕事を誇りに持ち務めたいと思います。
＜その他＞
・生活の場における援助は、施設の決め事をいかに利用者に押し付けないで、個人の望む　　暮らしが実現できるかが重要で、ルールや制限で固めてサービス提供側の論理と都合ですべてが決まるようなことがあってはならないと思う、利用者のいちばん身近な権利擁護者であり代弁者であることを忘れず、利用者の日常生活を守るため真摯に向き合い利用者及び家族と施設間の連絡調整や、外部の諸機関との連絡調整、チームアプローチの連携に努め、利用者個々の状態やニーズに沿ったケアを提供していきたい。
・介護保険更新申請は、面会制限にて１年延長の申請とした。
・各種更新は期日通り書類を提出した。

4. 医務室

＜健康管理について＞
・利用者の状態変化を医務室内でも情報の共有を行い、嘱託医に報告し適切な受診や早めの内服などの指示をもらうように対応してきた。今後も継続し早めの対応を行っていく。
・尿路感染症に対して早めの内服で対応してきたが状態の急激な悪化により病院受診となり入院に至るケースも多くあった。同じ方が罹患することが多く、水分摂取量の増量、排泄環境の見直しなどの予防を今後も継続していく。

＜感染症について＞
・ 今年度も新型コロナウイルス感染症対策を継続して行ったが感染の拡大により園内でも数回にわたりクラスターが発生した。医師と連携し速やかな内服等の処置を行ったが重症化するケースもあったが地域医療機関などの受診で対応することができた。
・ 年度末には風邪の流行もあった。早期に適切な対応を行ったが結果的に園内で蔓延してしまった。課題として統一したガウンテクニックが全職員行えるよう周知、徹底していく。また、今後も標準予防策を継続していく。

＜褥瘡について＞
・ コロナ対応後に褥瘡の発生が多発した。早期に適切な処置を行い完治することができた。今後も多職種と連携し褥瘡予防に努める。褥瘡発生時も早期に医師に報告し適切な処置が行えるようしていく。

＜看取りについて＞
・ 今年度も園で最期を希望された方の看取りを行った。本人の意向を聞くことは難しかったが、家族の希望に添えるよう看護を行うことができた。状態変化を見逃さないよう多職種と連携

を図り今後も家族と密にコミュニケーションをとりたい。

・ 看取りとなるタイミングが難しい。利用者の状態変化を見逃さないためにも多職種と連携し、情報収集を行う。状態変化があれば早期に医師、相談員と連携し、家族の意向が反映されるよう連携を強化していく。

＜業務について＞

・ 昨年度末より利用者個々に準備ができる薬箱に変更した。それにより配薬準備のミスが軽減した。今後も継続していく。

・ 必要物品を都度、検討することによりコストの削減に努めた。今後も都度検討しコストの削減を行う。

＜リハビリテーション＞

・他部署との情報共有・連携

今年度も新型コロナウイルスの影響で会議は書面開催であったが、日々積極的にコミュニケーションをとることで、情報共有・連携に努めた。

・個別リハビリ

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策に沿った個別リハビリ実績確認表を作成し、概ね実施することができたが、隔離期間中は実施することができず、長期臥床による筋力低下や拘縮が進行したケースが多く発生した。そのため、個別リハビリ計画を見直し、個々の心身機能に応じた計画を立案し実行した。

・食支援

嚥下機能評価し、食事介助方法の提案を行なった。

・褥瘡予防

褥瘡対策委員会に参加し情報収集に努めた。ポジショニング表を作成後、クッションの当て方等の指導。また、適宜見直し褥瘡発生・悪化予防に努めた。

＜褥瘡対策委員会＞

コロナ対応期間をのぞき委員会を開催することができた。多職種と連携し褥瘡予防に努めたが、コロナ対応後に褥瘡の発生が多くあった。早期に対応することにより悪化予防ができ完治することができた。褥瘡予防ができるよう引き続き委員会にて情報発信していく。

＜安全委員会＞

喀痰吸引の利用者が増えたが、必要に応じて実施することができた。胃瘻注入の実施状況は、順調に経過した。今後も対象者の方の状態に注意していきたい。

5. 給食

令和 4 年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により厨房内で作業を行う場面においても様々な影響を受ける 1 年となりました。

食事提供の面では利用者の重度化に伴い個別対応の件数が増加しました。特に食事摂取量が少なく低栄養状態の利用者や褥瘡発生時に栄養補助食品を提供することが増えました（年間約 260 万円）。

年間を通じ、普通食を提供する利用者は全体の約 15～20％に過ぎず、嚥下調整食、経管栄養食を提供する利用者が大半でした。

＜具体的取組みについての報告＞

○嗜好調査や行事等を通じて利用者とコミュニケーションをとることができました。また、季節の野菜の下処理（蕗の皮むきなど）を一緒に行うことができました。

○栄養マネジメント業務を行い、多職種連携で利用者のニーズを把握し、利用者ひとり一人の状態に合わせた食事提供を行うことができました。2022 年度からは栄養計画書を施設サービス計画書と一体化しました。2023 年度より再度栄養ケア計画書単独で作成することになります。

○療養食を提供し、病状の悪化を予防することができました。

○給食委員会と協力しミキサー食の改善に取り組むことができました。ミキサー食の硬さ、味付け、盛り付け量など全部署職員に試食をしてもらい完成品に近づけることができました。まだ改善しなければいけない部分が若干ありますので次年度も引き続き取り組んでいきたいと思います。

○看取り対象の利用者には、ご家族の意向も反映し本人の好みのもの、食べやすいものを提供することができました。

○今年度はおやつバイキングを 3 回開催することができました（5 月、11 月、3 月）。

○ランチバイキングを 1 回行いました。2 回計画していましたがコロナ対応のため 8 月のランチバイキングは中止となりました。2 回目は昨年同様折り弁当を提供し、利用者に大変喜んでいただけました（12 月）。

○開園記念日、敬老祝賀会では例年のような式典は中止となりましたが、お祝い膳を提供し喜んでいただけました。

○季節毎のイベント（ちまき作り、さんま焼き、焼き芋、餅つきなど）は介護部門と協力し計画を立てていましたが、コロナ対応と重なり一部の行事については中止せざるを得ない状況になりました。3 月に「いも煮会」を行いました。

○お誕生日を迎えられる利用者には「お楽しみ昼食」としてお祝い膳を提供することができました。

○新型コロナウイルス感染症対策として、非常用食品、使い捨て食器等の購入も行い感染者が確認された場合にも速やかに食事提供ができるように準備を行いました。実際にコロナウイルス感染予防対応で使い捨て食器を使用し食事提供を行う場面が今年度は多数ありました。夏場には厨房職員が複数名新型コロナウイルスに感染したため厨房で食事を作り提供することが困難な状況になりました。7 月末～8 月上旬まで「一文字家」にお弁当を発注し利用者に提供しました。

○日常業務のなかで小さな「気づき」は大きな事故防ぐため大切であるという認識を皆で再確認したいと思います。

○ショートステイ、やくものお家の利用者も重度化が進んでおり、個別対応の件数が多くなっています。担当者と連携し情報共有をしっかり行っていきます。

○WEB を利用した研修会に参加することができました。「松江の栄養・食事に関する連携を考える会」にはワーキングメンバーとして参加し、松江版食形態マップ作成に取り組むことができました。

6. 事務部

今年度は前年からの流れが続き入院者数も多く、コロナウイルス感染症の影響もあり、厳しい 1 年となりました。延べ利用者数は前年比-239 人、入院者数＋9 人でした。利用率は 91.32%と前年と横ばいとなりました。

物品では価格改定の都度、改定前の購入を増やして対応し、取引物品の見直しも行いましたが、経費の増加は避けられませんでした。今後も価格が上昇していくと考えられますので、取引業者も含め

物品の見直しに取り組んでいきます。

今年度よりオンライン研修を導入し、全職員に研修を受けていただきました。導入し実施したことで課題も見つかり、今後は見直して対応をしていきます。

人材については、産休・育休といった期間の限られた職員を確保するということは非常に難しく、新卒者の募集も行いましたが、今年度は採用に至りませんでした。今後も人材確保は喫緊な課題です。引き続き取り組んでいきます。

法人本部体制の変更から業務の流れも確立できてきました。事務内部の動きも変わりましたが、他部署の協力を得ながら行うことができました。本部とも連携して研修活動に取り組み、諸制度の改正に対応できるように取り組んでいきます。

① 保険制度による毎月の保険請求事務は、部門担当者を支援しながら期日通りに行いました。
② ホームページを活用して更新に努めました。
③ メール連絡網を活用して利用者・職員に発信をしました。
④ 広報紙「やすら樹」を発行し、家族・施設関係者に郵送しました。
⑤ 水道光熱関係・燃料・マットといった消耗品の実績は別紙の通りです。ガス・電気共に基本料の上昇により、前年度よりも経費が掛かりました。次年度も基本料金が上がるため使用方法を再度確認し、適切に使用できるよう取り組みます。特定の商品ではなく、すべての商品で価格改定され上昇し経費が増加しました。
⑥ 病院受診・入退院の運転援助といった他部署からの要請に速やかに取り組んできました。
⑦ 預かり金管理事務は別紙の通りです。
⑧ 営繕・修理・物品状況は別紙の通りです。
⑨ 感染症の蔓延により外部へ出かける研修は控えました。WEBを活用した研修に参加しました。e-ラーニングによる研修を行いました。
⑩ 今年度の避難訓練、防火訓練の取り組みは別紙の通りです。

7. 短期入所事業

＜実績内容＞

① 月平均延べ人数　　１９２．３人（対前年比：３７．１人↓）
② 平均介護度　　２．５１（前年度平均：２．８７）
③ １日平均利用者数　　６．３人（対前年比：１．２人↓）
④ 稼働率　　５２．７％（対前年比：１０．２ポイント↓）
⑤ 介護度別割合（単位：％）

要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
０．３	０	２４．７	２０．４	４２．９	１．８	９．９

＜事故報告書＞

計１４件（転倒７件、服薬関連３件、負傷４件）

□利用者数について

今年度に入り新型コロナウイルス感染の拡大により施設利用者、短期入所利用者、職員の関係者

にも濃厚接触者に該当者となるケースが増加してきた。短期入所利用者については前々年より継続して利用開始時の検温、本人の体調確認のうえ受け入れを行ってきたが、８月に利用中の短期入所者にコロナウイルス陽性者が確認された。以降も職員、施設入所者、短期入所利用者でコロナウイルス陽性者が断続的に発生し、その都度陽性者を隔離する等施設内で感染拡大の予防体制が行われた。それに伴い短期入所利用者の利用フロアの変更、さらに短期入所用居室が使用不可となった場合に短期入所の利用開始、継続利用の中止を案内せざるを得ない状況が相次いだ。

新規利用者についても利用契約に至るも、園内でコロナウイルスの感染が発生し、感染予防対策のための短期入所利用者居室の利用制限により利用キャンセルを案内することになり、結果的にその後の利用につながらなかった等、新規利用者の獲得は困難な状況が続いた。

コロナウイルス感染以外にも従来からの継続利用者については高齢化、要介護の重度化により、短期入所利用中または体調の急変による利用の中止となることが今年度も引き続き増加している。

土日、祝日の利用開始及び終了については、一昨年度から引き続き受入時の職員の感染対策体制の課題もあり、土日、祝日の短期入所受入、終了の対応は中止している。

そのため土日のみの利用といったニーズに対応が困難であり、利用機会の減少によりある程度の影響が出ていると考えられる。

□利用者対応ケアについて

事故、ヒヤリハットの報告では利用者の自立行動中の転倒やベッドからの転落などが多かった。骨折など受診が必要なケースは発生しなかったが、利用者の自立支援と安全確保のバランスを今後も慎重に考慮していく必要がある。

令和４年度 病院受診関係の報告

【総括】

令和4年度の病院受診、退院、X線撮影（BX-P）等の延べ人数は　422　人でした。
令和3年度　448人　に対し、26人減 となりました。

単位:(人)

月	受 診	退 院	BX－P	その他	計
4月	26	4	6	0	36
5月	26	6	6	0	38
6月	20	6	8	0	34
7月	21	4	2	1	28
8月	29	6	8	0	43
9月	32	5	5	0	42
10月	30	5	7	0	42
11月	16	14	6	4	40
12月	23	8	6	0	37
R5.1月	21	4	0	1	26
2月	24	4	0	0	28
3月	24	4	0	0	28
	292	70	54	6	422

受　　診･･･（検査のみ、胃ろう交換、入院等含む）
その他･･･（送迎のみ、結果のみ等）　422

令和４年度預り金管理報告

１．　預り金等（預金通帳・印鑑）管理については「長命園預り金規定」に基づいて管理　　を行っています。

入出金の状況を３ヵ月に一度、身元引受人（連帯保証人）に確認書を送付し、署名捺印の上返送いただきます。令和４年度確認書平均返送率は９７．４％となり前年比１．８％増となりました。

島根銀行通帳を当園に預り依頼される利用者（ご家族）は、今年度末時点で利用者７９名中、島銀通帳預り３１件、ゆうちょ銀行４０件、その他８件となっております。利用者またはご家族名義で既に所有されているゆうちょ銀行口座からの引落払いを選択される方が増加しています。(ゆうちょ銀行通帳は基本的にはご家族等身元引受人様による所有管理であるため、当園でお預りすることはありません。)引き続き、次年度においても、法令等を順守し利用者・ご家族様へ透明性のある適正な通帳管理を心がけ、当園への信用の維持向上を図ります。

	発送年月日	発送数	回収数	回収率
１回目	Ｒ４年　４月　８日	２８人	２８人	１００．０％
２回目	Ｒ４年　７月１１日	２９人	２９人	１００．０％
３回目	Ｒ４年１０月１１日	２７人	２７人	１００．０％
４回目	Ｒ５年　１月１１日	２９人	２６人	８９．７％

平均返送率：９７．４％

２．　現金の取り扱いは、原則として本人管理です。

払い出し依頼を受けたときは、「現金払い出し依頼書」を交付。

現金を引出して本人に受け渡したとき「預金受領書」を、複数職員にて確認。

本人・家族等から預り金にかかる現金の授受をうけた際には「預け入れ依頼書」を交付。

３．　預かった通帳から毎月の介護保険利用料・介護保険外（事務管理サービス・日用品・医療費等の立替金・長命会会費・湖南診療所からの一部負担金請求額）を毎月２０日（銀行休業日の場合は翌営業日）に自動引落で行います。

（身元引受人様には毎月１０日頃請求書発送）

４．　立替金の明細については、立替金個人明細を作成し請求書と同時に身元引受人様等に送付しご確認いただいております。

令和４年度　物品管理・営繕事業報告

【総　括】

今年度は、屋上の防水工事、コロナウィルス感染症対策における必要物品等の購入を行いました。

コロナ対策関連物品について、今年度は園内で数回クラスターが発生し、消費した備蓄品に関しては、必要数追加購入しました。昨年申請した助成金（新型コロナウィルス感染症感染拡大防止継続支援助成金）については、今年度の申請はありませんでしたが、島根県から物価高騰対策応援金として１００万円の支給を受けました。衛生用品については、保険申請中です。職員の抗原検査キットについては、当初は園で購入していましたが、国からの支給を受け、以後は間隔を決め、記録をとりながら継続的に検査することができました。プラスチック製品の供給は安定してきたものの、今後も値上がりや品薄が続くと予想されているものもあります。

物品購入について引き続き、その必要性を精査し、コストを削減できる可能性を探り実施して行きます。使用年数が経過するものも多く更新、修理についても精査して迅速に実施していきます。

１．器具及び備品、車輌等

今年度は 24 時間テレビの車両キャラバンの寄付申請をしましたが、惜しくも選出されず、現車を今後も使用予定です。すべての車両が 10 年以上経過しており更新を検討していきます。

２．保守点検の実施

① エレベータ点検（３ヵ月に１回）、遠隔監視メンテナンス（月１回）「東芝エレベータ㈱」
② 厨房リフト点検（月１回）「山陰エレベータ㈱」
③ 消防用設備点検「火災報知設備、消火器具、防排煙制御設備等」(年２回)「和幸電通㈱」
④ 消防用設備点検「スプリンクラー設備、非常電源等」（年２回）「㈱吉谷」
⑤ 自家用電気工作物点検（月１回）「小森電気管理事務所」
⑥ 千鶴・給与大臣・ほのぼの保守「ティーエスケイ情報システム」
⑦ その他

３．修繕関係

今年度は屋上の防水工事を行いました。近年雨漏りが発生しており、園内にも雨水が滴る状態がみられ、修繕しました。工事については、寺本建築設計事務所に設計・管理を依頼し、約 2 ヶ月間で完了しました。

令和４年度　消防関係の報告

【総　括】

消火、通報、避難の訓練について、６月と１０月に実施しました。図面による想定訓練を行い、避難方法、行動の流れについて再確認し、消火器訓練を行い消火器の扱い方について理解を深めました。事業継続計画について令和６年度から義務となっております。感染時、災害時を想定した計画を策定し見直しを行い実効性のあるものを策定していきます。

R4 年度実施訓練一覧

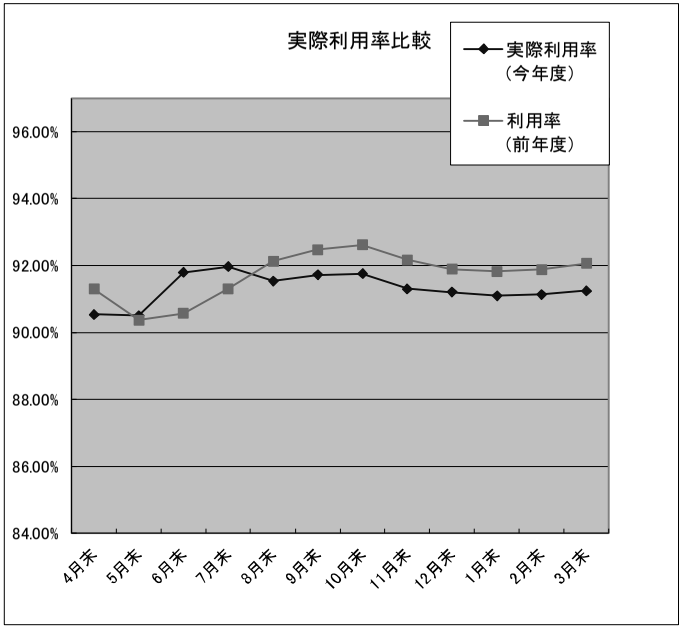
月　　日	訓練参加者	内容
6 月 29 日	松鹿、石原一、森廣、秦	総合訓練
11 月 14 日	河野	新人研修
10 月 19 日	野口、奈良井、石原、石田	総合訓練

令和4年度　長命園

＜特養入所＞

80人定員

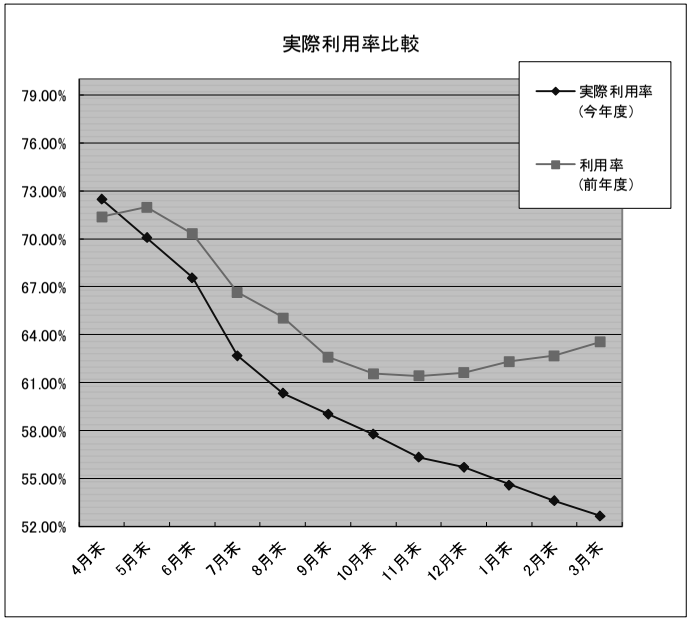
80	日数	累計日数①	①*80床=②	②*94.9%	当月在園実数	累計在園実数③	全国平均値との人数差異	1日平均在園人数累計（人）	実際利用率（今年度）	利用者数（月末）	入院者数（月末）	利用率（前年度）	前年利用者数（月末）	前年入院者数（月末）
4月末	30	30	2,400	**2,278**	2,173	2,173	▲ 105	72.4	90.54%	77	13	91.29%	79	16
5月末	31	61	4,880	**4,631**	2,244	4,417	▲ 214	72.4	90.51%	78	13	90.37%	79	15
6月末	30	91	7,280	**6,909**	2,266	6,683	▲ 226	73.4	91.80%	80	8	90.58%	81	16
7月末	31	122	9,760	**9,262**	2,293	8,976	▲ 286	73.6	91.97%	80	11	91.31%	81	10
8月末	31	153	12,240	**11,616**	2,228	11,204	▲ 412	73.2	91.54%	80	14	92.13%	80	7
9月末	30	183	14,640	**13,893**	2,224	13,428	▲ 465	73.4	91.72%	79	11	92.48%	79	5
10月末	31	214	17,120	**16,247**	2,280	15,708	▲ 539	73.4	91.75%	79	12	92.62%	79	11
11月末	30	244	19,520	**18,524**	2,114	17,822	▲ 702	73.0	91.30%	79	23	92.16%	78	15
12月末	31	275	22,000	**20,878**	2,244	20,066	▲ 812	73.0	91.21%	77	14	91.90%	77	11
1月末	31	306	24,480	**23,232**	2,235	22,301	▲ 931	72.9	91.10%	79	13	91.82%	80	14
2月末	28	334	26,720	**25,357**	2,050	24,351	▲ 1,006	72.9	91.13%	78	10	91.89%	80	12
3月末	31	365	29,200	**27,711**	2,292	26,643	▲ 1,068	73.0	91.24%	78	10	92.07%	78	11



＜短期入所＞

12人定員

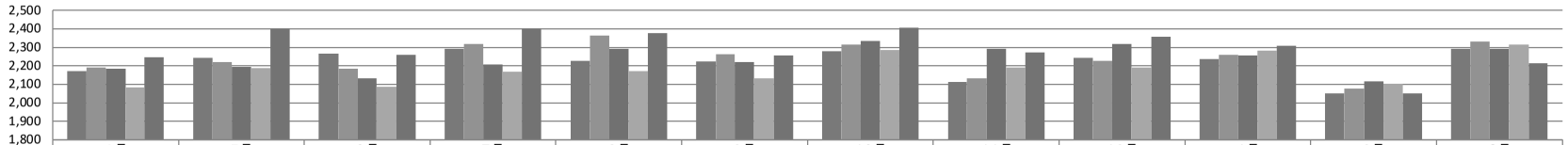
12	日数	累計日数①	①*12床=②	②*83.4%	当月利用実数	累計利用実数③	全国平均値との人数差異	1日平均利用人数（人）	実際利用率（今年度）	利用者数（月末）		利用率（前年度）	前年利用者数（月末）	
4月末	30	30	360	**300**	261	261	▲ 39	8.7	72.50%	20		71.39%	17	
5月末	31	61	732	**610**	252	513	▲ 97	8.4	70.08%	20		71.99%	18	
6月末	30	91	1,092	**911**	225	738	▲ 173	8.1	67.58%	19		70.33%	17	
7月末	31	122	1,464	**1,221**	180	918	▲ 303	7.5	62.70%	14		66.67%	16	
8月末	31	153	1,836	**1,531**	190	1,108	▲ 423	7.2	60.35%	14		65.09%	18	
9月末	30	183	2,196	**1,831**	189	1,297	▲ 534	7.1	59.06%	15		62.61%	16	
10月末	31	214	2,568	**2,142**	187	1,484	▲ 658	6.9	57.79%	17		61.57%	16	
11月末	30	244	2,928	**2,442**	166	1,650	▲ 792	6.8	56.35%	13		61.44%	17	
12月末	31	275	3,300	**2,752**	189	1,839	▲ 913	6.7	55.73%	12		61.64%	17	
1月末	31	306	3,672	**3,062**	167	2,006	▲ 1056	6.6	54.63%	11		62.34%	18	
2月末	28	334	4,008	**3,343**	143	2,149	▲ 1194	6.4	53.62%	14		62.70%	17	
3月末	31	365	4,380	**3,653**	158	2,307	▲ 1346	6.3	52.67%	13		63.56%	18	



令和４年度利用者移動状況（長命園）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4年度 合計人数	3年度 合計人数	昨年比
退園者数	1人	4人	1人	5人	2人	2人	人	4人	1人	3人	1人	3人	27人	18人	9
氏名	女性1人	男性2名 女性2人	女性1人	男性2人 女性3人	男性1人 女性1人	女性2人		男性1人 女性3人	女性1人	男性1人 女性2人	男性1人	女性3人			
入園者数	人	3人	2人	2人	4人	3人	1人	1人	2人	3人	2人	3人	26人	19	7
氏名		男性1名 女性2人	男性1人 女性1人	女性2人	男性2人 女性2人	男性1人 女性2人	女性1人	女性1人	女性2人	男性1人 女性2人	男性1人 女性1人	男性1人 女性2人			
4年度延べ在園数	2,173	2,244	2,266	2,293	2,228	2,224	2,280	2,114	2,244	2,235	2,050	2,292	26,643	26,885	−242
3年度延べ在園数	2,191	2,219	2,184	2,318	2,365	2,262	2,317	2,134	2,227	2,260	2,076	2,332	26,885	26,838	47
2年度延べ在園数	2,183	2,194	2,131	2,209	2,291	2,219	2,336	2,291	2,319	2,258	2,116	2,291	26,838	26,205	633
1年度延べ在園数	2,084	2,189	2,086	2,168	2,171	2,134	2,287	2,191	2,190	2,283	2,105	2,317	26,205	27,552	−1347
30年度延べ在園数	2,247	2,400	2,260	2,399	2,377	2,257	2,406	2,274	2,359	2,307	2,052	2,214	27,552	27,738	−186
平均在園数	71	72	76	74	72	74	74	71	73	72	73	74	73	74	
延べ入院外泊人数	199	185	109	134	190	119	189	264	176	161	138	147	2,011	1,587	424
平均入院者数	6	6	4	4	6	4	6	9	6	5	5	5	6	4	
全体ベッド稼働数	2,173	2,244	2,266	2,293	2,228	2,224	2,280	2,114	2,247	2,235	2,050	2,292	26,646	26,838	−192
平均ベッド稼働数	71	72	76	74	72	74	74	71	73	72	73	74	73	74	
特別食者数(療養食)	11	12	12	14	15	17	17	17	18	18	18	18			
延べ特別食数（回数）	990	1,005	1,018	1,217	1,356	1,397	1,553	1,444	1,631	1,628	1,493	1,516	16,248	15,095	1153

月別延べ利用者数年度推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4年度延べ在園数	2,173	2,244	2,266	2,293	2,228	2,224	2,280	2,114	2,244	2,235	2,050	2,292
3年度延べ在園数	2,191	2,219	2,184	2,318	2,365	2,262	2,317	2,134	2,227	2,260	2,076	2,332
2年度延べ在園数	2,183	2,194	2,131	2,209	2,291	2,219	2,336	2,291	2,319	2,258	2,116	2,291
1年度延べ在園数	2,084	2,189	2,086	2,168	2,171	2,134	2,287	2,191	2,190	2,283	2,105	2,317
30年度延べ在園数	2,247	2,400	2,260	2,399	2,377	2,257	2,406	2,274	2,359	2,307	2,052	2,214

介護度別延べ日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計		
介護度1	30	31	25	25	21	30	19	0	0	0	0	0	181	181	
介護度2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	730	
介護度3	255	299	285	307	291	305	341	330	352	330	308	370	3,773	11,319	
介護度4	1,218	1,258	1,227	1,266	1,296	1,301	1,315	1,223	1,309	1,355	1,207	1,358	15,333	61,332	
介護度5	640	625	699	664	589	558	574	531	552	519	507	533	6,991	34,955	
合計人数	2,173	2,244	2,266	2,293	2,228	2,224	2,280	2,114	2,244	2,235	2,050	2,292	26,643	108,517	***平均介護度*** ***4.073***

2022度事故報告　　R4．4～

長命園

a尻餅　b転倒　c転落　d剥離　e打撲　f異食　g誤薬　h誤嚥　i骨折　j誤配薬　kトラブル　lその他　NOは受付順　　A入院　B受診　C軽度

NO	月/日	時間	氏名	種別	内容	対策	程度	介護度
1	4/1	12:17		a尻餅	ﾎｰﾙから足こぎ自走中ずり落ちﾌｯﾄｻｰﾎﾟｰﾄの上に尻餅	姿勢、ﾌﾞﾚｰｷ、多動時本人の動きに注意する	C	4
2	4/2	9:40		g誤薬	4/1日付の別の種類の貼付薬が貼ってあった	ﾃｰﾌﾟを出すとき日時記入時、剥ぐ貼るとき確認	C	4
3	4/2	18:30		i骨折	車椅子からベッド移乗介助時、「ﾊﾟｷｯ」といったと言う	車椅子変更時注意点を調べ共有する。	A	3
4	4/7	3:15		e打撲	ｾﾝｻｰ訪室、「床にぶつけた」と左眉皮下出血あり	行動範囲内危険箇所あれば環境整備をする	C	4
5	4/9	11:30		kトラブル	注入時加圧ﾊﾞｯｸで加圧した後胃瘻ﾁｭｰﾌﾞより外れる	加圧するとき異常ないか確認しながらゆっくり加圧する	C	5
6	4/12	8:00		lその他	タンスの上にあった写真立てが落ちガラスが割れる	居室の整理整頓に努める	C	4
7	4/19	9:20		d剥離	入浴時右前腕に1cmの剥離を発見	皮膚が弱いため入浴時手の位置に注意する	C	5
8	4/24	10:00		j誤配薬	昨日の夕食後薬が残っている	配り終えた後もう一度確認する	C	4
9	4/25	14:30		d剥離	右脛剥離しているのを発見する	業者に改善以来、ｸｷﾞ部分ｶﾊﾞｰにて応急処置	C	3
10	5/3	6:15		a尻餅	ﾄｲﾚにて尻餅をついている所を発見する。	東ｸﾞﾙｰﾌﾟと声掛けし見守りする	C	4
11	5/7	0:40		c転落	ｾﾝｻｰにて訪室ﾍﾞｯﾄﾞより頭が床についている	衝撃緩和ﾏｯﾄ設置する。ﾍﾞｯﾄﾞを最低床に変更	C	3
12	5/8	12:40		b転倒	居室より音がしたため見ると床に両膝をついていた	歩行器を側に置いておく。ｾﾝｻｰを近くに置く	C	4
13	5/9	0:20		b転倒	ﾎｰﾙにて車椅子横に仰向けで倒れている	傍を離れる際は必ず声を掛け戻ってくると伝える	B	3
14	5/9	4:00		d剥離	右手首に1×1cmの剥離を見つける	皮膚が弱いので関わる際は慎重に行う	C	4
15	5/11	16:00		f異食	居室で同室者の保湿ﾛｰｼｮﾝを飲んでいるのを発見する	保湿剤はタンスではなくﾜｰｶｰ室で管理する	B	4
16	5/16	15:15		lその他	時間が過ぎても受診にて行っていない事に気付く	事務所に受診届けを提出時、声掛けし確実に渡す	C	4
17	5/19	18:20		b転倒	ﾍﾞｯﾄﾞ移乗介助時バランスを崩し左へ傾き倒れる	足の位置確認、直ぐ支えられる位置で介助する	C	4
18	5/19	10:00		c転落	ｾﾝｻｰにて訪室、上半身布団に絡まり床の上に落ちる	超低床ﾍﾞｯﾄﾞに変更する	C	4
19	5/21	11:30		b転倒	ﾄｲﾚにてﾄﾞｱに向かって前のめりに転倒した	ﾄｲﾚに座るときは傍に居るか、ﾃｰﾌﾞﾙを使用する	C	4
20	5/24	7:20		f異食	食堂入り口にあった歯磨き粉を食べている所を発見	歯磨きラックの整理整頓。歯磨き粉は別の場所に	C	4
21	5/27	7:30		j誤配薬	注入ワゴンの中にﾊﾙﾛﾋﾞﾃｰﾌﾟ貼付薬残っていた	変更時薬が届いた時直ぐに貼る	C	4
22	5/27	15:40		c転落	訪室すると顔をﾍﾞｯﾄﾞにうずめ下半身がﾍﾞｯﾄﾞ床に落ちる	ﾍﾞｯﾄﾞ柵の変更、暫くしてｷﾞｬｯｼﾞを下げる	C	4
23	5/30	13:30		i骨折	ﾜｰｶｰが目を離した間に独歩で移動転倒する	東南で見守り体制を確立、本人にあった靴購入	A	4
24	6/1	16:30		b転倒	EV前で横になっている	見守りの時間を決める	C	3
25	6/2	9:15		b転倒	ﾎｰﾙ中央で車椅子より前のめりに転倒しているのを発見	見守り体制を新たにつくり、職員がいる時間の確保	A	3
26	6/8	7:50		g誤薬	岸の朝食の薬を誤って服薬介助した	声に出して読み上げる	C	3
27	6/13			lその他	車椅子ｱｰﾑﾚｽﾄが破損している	使用方法の共有、丁寧に扱う	C	5
28	6/14	10:00		a尻餅	ﾎｰﾙで立ち上がり伝い歩き後バランスを崩し尻餅をつく	誰かが必ず見守りをする体制作り	C	4
29	6/16	18:40		d剥離	右前腕に剥離が出来ているのを発見する	皮膚が弱く剥離しやすいため注意して介助時する	C	5
30	6/21	11:00		j誤配薬	10時の薬を飲み忘れて残っていた	医務が10.15時薬を水屋に貼って貰う	C	5
31	6/21	8:10		b転倒	食事席から立ち上がろうとして左を下に転倒する	移動する際は職員に声を掛けて貰うようお願いする	C	2
32	6/21	10:00		e打撲	頭頂部発赤、瘤があるのを発見する	勢いよく上に持ち上げないよう介助する	C	4
33	6/24	17:00		j誤配薬	他利用者の薬にかきなっていることにきづく	薬を一つずつ確認する	C	3
34	6/22	12:30		lその他	入院時看護サマリーが他利用者の内容だと気づく	氏名内容の確認を怠らない。PC文章記入ﾃﾝﾌﾟﾚｰﾄの修正	C	3
35	6/29	8:00		d剥離	左手背の皮下出血部が表皮剥離（4cm）している	ｱｰﾑｻﾎﾟｰﾀｰ使用、席の位置検討	C	4
36	7/1	10:20		d剥離	ｾﾝｻｰにて訪室、右頬線状の皮下出血を発見	柵に保護ｶﾊﾞｰ装着する	C	4
37	7/3	6:35		d剥離	移乗介助時左足がﾌｯﾄﾚｽﾄに当たり裂傷出血する	介助時必ずﾌｯﾄﾚｽﾄを外す事の周知徹底する	B	5
38	7/6	14:40		b転倒	ｾﾝｻｰにて訪室下半身のみずり落ちた状態になっている	必ずｺｰﾙを押して貰う様お願いする	C	5
39	7/4	12:30		lその他	移動介助時ﾌｯﾄﾚｽﾄから足が落ち、足を痛める	ゆっくり車椅子を押す、足の位置確認	C	5
40	7/7	15:10		lその他	ｽﾄﾚｯﾁｬｰ上左側臥位時上半身が落ちそうになる	介助者の立つ位置を確認、柵は足の部分のみ外す	C	4
41	7/15	1:10		c転落	訪室するとﾍﾞｯﾄﾞより転落しているのを発見する	障子側足元に柵をつける、臥床時低床にする	C	4
42	7/25	13:50		a尻餅	ｾﾝｻｰにて訪室ﾍﾞｯﾄﾞ横床に座っている	ｾﾝｻｰ後迅速に対応する。環境整備	C	3
43	7/27	12:10		h誤嚥	食事中顔面蒼白の状態を発見する	外注の食事時は提供する前に固さ大きさの確認をする	C	4
44	8/3	10:30		b転倒	居室より大声、訪室するとﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞ床に左下に転倒	ｾﾝｻｰﾏｯﾄ設置、用事があるときは必ずｺｰﾙを押して貰う	B	4
45	8/10	16:00		d剥離	体位変換すると左膝下から下腿部に表皮剥離も、乾燥している	しっかり身体の下に手を入れ引きずらないように気をつける	C	4
46	8/12	7:40		i骨折	居室より「痛いー」左大腿部の痛みあり立位困難	不眠不穏時には頻回な見守り、	A	3
47	8/14	16:50		i骨折	訪室すると柵と柵の間に首を挟んで90度回転している	介護ﾍﾞｯﾄﾞ柵の危険について周知徹底、陽性者対応再確認	B	4
48	8/17	18:45		d剥離	連れ帰り時右肘0.5cmの剥離あり	車椅子時手の位置確認。ｱｰﾑﾚｽﾄの上げ下げ時注意する	C	5
49	8/16	11:15		c転落	ﾎｰﾙで車椅子からずり落ち両ﾌｯﾄﾚｽﾄの間に入り込む	ﾎｰﾙを離れるときは他職員に対応お願いする	C	4
50	8/24	9:30		e打撲	ﾍﾞｯﾄﾞ上で右手甲が柵に当たり発赤している	ｷﾞｬｯｼﾞｱｯﾌﾟ時手の位置に注意、ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ検討	C	5
51	8/25	11:00		lその他	新入所前タンスの中を確認すると荷物が残っていた	全ての引き出しを開け中を確認しまとめる	C	5
52	8/25	23:05		d剥離	訪室すると柵カバーに左頬を乗せており確認、剥離している	頻回の起き上がりあるなら離床して貰う	C	4
53	8/27	15:50		a尻餅	スイカを力一杯叩いた後、バランスを崩し尻餅をつく	スイカ割りの際のリスクを事前に共有し備える	C	2
54	8/28	19:45		b転倒	ｾﾝｻｰ訪室、ﾍﾞｯﾄﾞと畳みの間に左足が入った状態で発見	超低床ﾍﾞｯﾄﾞに変更する、環境整備	C	4
55	8/29	16:40		b転倒	廊下床で横になっているのを発見する	コロナ対応であっても、必ず見守りを行う	C	4
56	9/2	7:46		b転倒	起床にて引き上げようとし、バランスを崩し二人とも畳の上に転倒	無理をせず、職員を呼ぶ。担当の変更	C	4
57	9/9	10:00		c転落	脱衣室ｿﾌｧｰに移ったところで足が滑り、ずり落ちる	床が滑らないか確認、座るときは深く座って貰う	C	2
58	9/11	14:40		lその他	車椅子グリップを握ったら、破損した	何か異常を感じたら直ぐにﾒﾝﾃﾅﾝｽを依頼する	C	5
59	9/20	9:30		g誤薬	座薬日ではないが、挿肛した	便表の日数も書き換える。挿肛前再ﾁｪｯｸ	C	4
60	9/21	12:15		lその他	受診送迎時、ｽﾛｰﾌﾟｽｲｯﾁの傍に検体（尿）を発見する	検体を届ける際は助手席に置き届ける	C	5
61	9/22	15:30		i骨折	他利用者対応後ﾎｰﾙに戻るとｴﾚﾍﾞｰﾀｰ前で右側を下に転倒している	見守り体制の再確認、誰かがﾎｰﾙに居るようにする	B	4
62	9/25	11:00		e打撲	訪室するとﾍﾞｯﾄﾞ柵に左足が入っている。左下肢皮下出血あり	柵ｶﾊﾞｰの設置。ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞの見直し	C	4
63	9/26	5:30		i骨折	ｽﾞﾎﾞﾝの裾をめくると左膝外側に皮下出血を発見する	立位不安定な時は無理をせず二人介助で対応	B	4
64	9/30	21:10		lその他	居室ﾄﾞｱが音がするため確認、ﾄﾞｱの前に立っていた	ﾍﾞｯﾄﾞ、ﾀﾝｽ位置変更、環境整備	C	4
65	10/3	16:00		d剥離	入浴後右上腕部2.5cm大の亀裂様剥離を発見する	皮膚が脆くなっているので細心の注意を払い洗う	C	5
66	10/6	5:30		c転落	ｾﾝｻｰにて訪室ﾍﾞｯﾄﾞに足を上げたままの状態で床に横になっている	排泄介助後はｶｰﾃﾝを開けておく	C	2
67	10/8	7:00		e打撲	起床時左頬に皮下出血あり（1×1cm）	ﾍﾞｯﾄﾞ柵交換する（ｽﾎﾟﾝｼﾞｶﾊﾞｰ）	C	4
68	10/11	11:00		j誤配薬	眠前の箱の中に配り忘れの薬が入っている	箱から薬を取り出した後、再確認する	C	3
69	10/11	23:30		b転倒	ｺｰﾙにて訪室ﾍﾞｯﾄﾞに持たれ床に座っている	浮腫強いので午睡時はﾍﾞｯﾄﾞ臥床を促す	C	2
70	10/12			lその他	ﾌﾞﾚｰｷが破損する	移乗時は介助施行	C	4
71	10/13	15:00		d剥離	入浴時ｶﾐｿﾘで小鼻を0.2cm切れる	電気ｼｪｰﾊﾞｰでひげ剃りをし剃れないところを剃刀で	C	5
72	10/15	11:20		d剥離	ﾍﾞｯﾄﾞから車椅子に移乗後左腕に左上腕剥離がある	手の位置に気をつけ、離床時のみ二人介助施行とする	C	4
73	10/16	9:00		c転落	車椅子からずり落ちる	ﾌｯﾄﾚｽﾄに足がのっているか確認、座面の角度確認	C	5
74	10/18	10:30		e打撲	入浴時服を脱ぐと左肩に皮下出血あり（8×8cm）	思わぬ行動をされることを頭に入れ介助を行う	C	1
75	10/18	16:10		d剥離	ﾄｲﾚ介助時移動ﾊﾞｰの角で手背剥離する（1.5×1.5cm）	金具で怪我をする可能性があることを認識し介助を行う	C	1
76	10/24	18:45		i骨折	ﾄｲﾚ介助時右下肢を浮かした状態で立位する	危険な場面のﾘｽﾄｱｯﾌﾟし職員で共有する	B	4
77	10/24	12:40		lその他	ｺｰﾙの線が外れ接続部が破損していた	ｺｰﾙの場所変更、ｺｰﾙが柵に付いているときは必ず確認	C	5
78	10/31	8:25		e打撲	右足第4.5指の付け根に皮下出血あり	こまめに様子を見る、防水ｼｰﾂの変更	C	4
79	10/31	15:00		d剥離	入浴後肘置き金具部に肘を擦り剥離する（3cm）	金具部分にタオル等で保護になるものを当てておく	C	5
80	11/8	17:00		b転倒	ｶｰﾃﾝを開けたところでﾊﾞﾗﾝｽを崩し右を下に倒れる	食事が来てから離床して貰う	C	3
81	11/13	8:55		a尻餅	訪室すると床に尻餅をついている	ﾀﾝｽ側床に緩和ﾏｯﾄを設置する	C	5
82	11/30	11:30		a尻餅	訪室すると床に長座位で靴下を履いていた	ﾃｰﾌﾞﾙの前にｾﾝｻｰを設置する	C	4
83	11/19	16:15		a尻餅	「おねぇーさーん」訪室すると床に座っている	ｾﾝｻｰを必ず踏んで確認する。歩行器を手の届くところに置く	C	3
84	11/20	18:50		c転落	訪室すると右側になった状態で転落している	臥床時移乗ﾊﾞｰを閉じる。鞄はｵｰﾊﾞｰﾃｰﾌﾞﾙに置く	C	3
85	11/23	9:00		j誤配薬	昨日排便あったがGE施行	日勤ﾊﾟｿｺﾝ当番が再確認する	C	3
86	11/27	14:20		a尻餅	ﾎｰﾙで車椅子より降りる（尻餅をついている）	離床後は見守り実施、ﾄｲﾚの訴えあるときは誘導する	C	4
87	11/29	17:18		c転落	車椅子よりずり落ち頭だけ座面にのっている	その都度姿勢を直す。軽度ﾁﾙﾄを掛ける	C	4
88	12/2	19:50		lその他	ﾊﾟｯﾄ交換時拘縮の右足が脱力著明	介助の際負荷が掛からないように気をつける	B	5
89	12/3	2:50		c転落	ｺｰﾙにて訪室布団と共に床に座っている	ｾﾝｻｰ設置、臥床時低床にする	C	3
90	12/8	6:00		e打撲	衣類交換時右上肢に皮下出血があるのを発見する	ｾﾝｻｰ時速やかに訪室し対応する	C	4
91	12/11	23:00		d剥離	衣類交換時左前腕皮膚剥離してしまう（2×3cm）	皮膚が脆いので介助の際は細心の注意を払う	C	4
92	12/13	15:00		h誤嚥	お茶ﾄﾛﾐ2杯摂取後激しく咽せる。その後ﾋｭｰ音（+）	誤嚥のﾘｽｸ高いので姿勢飲み込み確認覚醒に注意する	A	4
93	12/14	8:30		j誤配薬	昨日15時服薬の薬がそのまま残っていた	服薬について相互に確認が出来る体制をつくる	C	5
94	12/14	16:10		b転倒	「起こしてくださーい」訪室すると左を下に横たわっている	姿勢が崩れている時は直す。体調不調時はいつも以上に心配る	C	3

95	12/15	11:00		e打撲	入浴時前額部2箇所に打撲痕あり	ﾍﾞｯﾄﾞのぶつかりそうな箇所にｶﾊﾞｰをつける	C	4
96	12/20	14:30		a尻餅	ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞ床に左を下に倒れている	居室変更後、ﾍﾞｯﾄﾞ柵の位置等同じ配置にする	C	2
97	12/29	15:30		e打撲	入浴時右上腕に皮下出血あり（15×3cm）	ﾍﾞｯﾄﾞ柵にｶﾊﾞｰをつける	C	4
98	12/28	10:00		a尻餅	居室より「だれかー」訪室すると床に尻餅をついている	滑り止め付き靴下を履いて貰う	C	3
99	12/28	19:50		c転落	センサー訪室、下半身裸で床に転落している	緩和ﾏｯﾄ設置、センサーﾏｯﾄ継続	C	3
100	12/29	3:10		a尻餅	訪室するとﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞ床に尻餅をついている	体調不調時は行動に注意する	C	3
101	1/1	17:45		b転倒	ｺｰﾙにて訪室するとﾍﾞｯﾄﾞに戻ろうとしずり落ち転倒している	部屋で車椅子で過ごすときは近くにセンサーを置く	C	4
102	1/15	10:20		d剥離	ﾍﾞｯﾄﾞ上排泄介助時左足脹ら脛剥離している（3×5cm）	保護のためﾚｯｸﾞｳｫｰﾏｰ使用。職員同士で介助の確認し合う	B	4
103	1/16	15:30		d剥離	本人が、入浴後左肘剥離したと、教えてくれる	皮膚状態が悪いことを念頭に介助を行う	C	2
104	1/19	7:30		g誤薬	引き出しの中に昼と夕の薬が入っていた	引き出しを必ず確認する	C	4
105	1/20	19:45		b転倒	センサーにて訪室、ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞ畳みの上で右を下に倒れている	ﾍﾞｯﾄﾞ位置の変更、歩行器使用し筋力低下予防に努める	C	4
106	1/28	9:30		g誤薬	座薬日ではないが挿肛してしまった	思い込まず常に確認を怠らないようにする	C	4
107	1/31	1:45		b転倒	ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞ緩和ﾏｯﾄ上横になっている	センサーﾏｯﾄ設置する	C	4
108	1/31	15:10		e打撲	センサーにて訪室、右眼横うっすら皮下出血、腫脹（+）	柵ｶﾊﾞｰの設置、環境整備に努める	B	4
109	2/1	9:15		a尻餅	ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞで車椅子に足が挟まった状態で尻餅を付いている所を発見	センサーﾏｯﾄ設置	C	5
110	2/3	17:00		f異食	テーブルに置いていた節分用丸めた新聞を口に入れている	異食のある利用者だと認識しておく	C	4
111	2/3	17:00		f異食	テーブルに置いていた節分用丸めた新聞を口に入れている	異食のある利用者だと認識しておく	C	4
112	2/3	20:00		g誤薬	夕の注入と薬がそのままタンスの上に置いてあった	報告で終わらず必ず確認する	C	5
113	2/4	9:40		lその他	ホールで自席から立ち独歩で他利用者の後ろを通り動けなくなっている	見守り者を一人でも居る状態にする	C	4
114	2/5	8:00		g誤薬	違う方の食事を提供し薬も間違えて服薬した	本人の顔をみて〇〇さんですか？と聞く、声だし確認の徹底	C	3
115	2/7	20:15		b転倒	ホールより「ﾄﾞﾝ」行くと頭を押さえ滑ったと、座っている	傍を離れるときは、他職員に伝える。夕食後居室誘導する	C	4
116	2/7	8:00		lその他	こんな物が口に入りましたと、ﾎﾁｷｽを見せる	薬を渡すときはゴミやﾎﾁｷｽがないか確認する	C	3
117	2/7	14:30		d剥離	入浴時右足第一指の爪が第二指に当たりへこんで傷になっている	入浴時爪の確認、長ければ切る	C	4
118	2/9	7:30		lその他	3階の注入準備がされていなかった	今後ﾜｰｶｰは朝食後薬のみ準備する事とした	C	
119	2/10	14:15		d剥離	入浴時洗身中自分で動かれ、右上腕1cmの皮膚剥離する	ｱｰﾑﾚｽﾄをﾀｵﾙで保護する。皮膚が弱いことを認識し介助する	C	4
120	2/13	13:50		c転落	車椅子のフットサポートの上に乗っている	居場所確認、状況に応じ誘導する	C	3
121	2/15	10:20		f異食	ﾃｰﾌﾞﾙの上にあったﾃｨｯｼｭやﾏｽｸを食べようと口の中に入れる	手の届くところに、物を置かない。異食行為者ﾘｽﾄ作成	C	4
122	2/15	22:50		c転落	センサーにて訪室、上半身のみ床に落ちた状態でいる	掻痒時、ﾛｰｼｮﾝ塗布対応、ｾﾝｻｰﾏｯﾄ・緩和ﾏｯﾄ継続対応	C	4
123	2/16	1:30		a尻餅	巡回にて訪室、ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞで尻餅をついている	滑り止め付き靴下を履いて貰う。	C	3
124	2/17	15:50		d剥離	入浴時親指と人差し指の間に複数の傷があるのを発見	皮膚が弱いので介助時は注意し対応する。爪を切る	C	5
125	2/20	23:00		lその他	ベッド上に白湯入りシリンジが置いたままになっているのを発見	最後にベッド周りを確認しきちんとかたづける	C	4
126	2/25	3:00		a尻餅	靴を履こうとし、ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞ長座位でいる所を発見する	動作不安のあるときは、ｺｰﾙを押すようお願いする	C	4
127	3/3	19:00		lその他	注入物が入ったままの状態を発見する	注入物終了時に開始時の数と合っているか確認する	C	4
128	3/3	19:00		lその他	注入物が入ったままの状態を発見する	注入物終了時に開始時の数と合っているか確認する	C	4
129	3/3	19:50		b転倒	廊下で左側を下に転倒しているところを発見する	離床時は見守りの徹底	C	4
130	3/4	7:45		j誤配薬	朝食薬に他人の臨時薬がﾎﾁｷｽで留めてある	ﾌﾙﾈｰﾑを声だし確認、薬箱に同姓注意とｼｰﾙを貼る	C	4
131	3/5	6:30		a尻餅	声がしたため訪室、ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞ床に座っているのを発見する	靴は起きてから履きやすい場所に置く	C	4
132	3/5	19:30		b転倒	ホールにて、職員他利用者対応後戻ると左を下に倒れている	離れる時は、必ず声を掛け戻ることを伝える。	B	4
133	3/5	21:50		b転倒	居室より声がした為訪室、入り口付近で床に座っている	不穏時はセンサーマットを使用する。不安を取り除く声掛け	C	4
134	3/6	16:20		b転倒	向かいのベッドと車椅子の間の床に座っているのを発見する	環境整備（センサーの位置再確認）	C	3
135	3/11	21:45		b転倒	居室より声、訪室するとﾍﾞｯﾄﾞ横床で横になっている	センサーﾏｯﾄをﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞに設置	C	3
136	3/13	8:30		i骨折	痛みが強くなり立位が取れなくなる	移乗時床に座るまで身体を支える	B	4
137	3/14	12:55		c転落	ﾄｲﾚより奇声、右側を下に丸まって転落しているのを発見	ﾄｲﾚに座っている間、傍を離れない	B	4
138	3/15	5:40		e打撲	左母指皮下出血しているところを発見	衣類交換時指が引っかからないよう細心の注意を払う	B	5
139	3/16	12:50		a尻餅	床に尻餅をついてるのを発見する	車椅子の変更（にげないくん）	C	2
140	3/19	9:40		b転倒	居室手前廊下で居室の方向に右を下に転倒している	見守りの強化、足こぎ自走時は職員が押す	C	3
141	3/17	4:45		e打撲	排泄介助時右太ももが大きく腫れてるのを発見する	立位ﾊﾞｰを透き間のないものに変更する	B	3
142	3/22	11:00		d剥離	右手第1指より出血、深爪してしまう	爪の裏も確認して皮膚を切らないよう注意して行う	C	4
143	3/26	16:20		a尻餅	ﾄｲﾚで尻餅をついているのを発見する	対応出来なくなったとき説明待って貰う様伝える	C	5
144	3/28	10:30		d剥離	入浴後身体を拭くと左肘に剥離しているのを発見する	身体を横に向けるときは腕や肘の位置に注意する	B	4
145	3/30	11:00		d剥離	入浴時右手背が広範囲に皮下出血しているのを発見する	環境整備、ベッド周辺カバーの設置	C	4
146	3/31	10:00		d剥離	左薬指より出血している	ｱｰﾑｳｫｰﾏｰ使用とする	C	5
147	3/31	14:00		e打撲	緩和マットの上に長座位になり足の上に床頭台が倒れている	環境整備、こまめに様子を見に行く	C	4
148	3/31	15:30		e打撲	入浴時左肘に皮下出血が出来ているのを発見する	体位変換時摩擦がおこらないよう気をつける	B	4

令和2年度

種別	件数
a尻餅	28
b転倒	35
c転落	7
d剥離	12
e打撲	2
f異食	2
g誤薬	3
h誤嚥	5
i骨折	10
j服薬忘れ	8
kトラブル	5
lその他	83
	200

時間	件数
0～7	10
7～8	17
8～10	35
10～12	26
12～13	7
13～14	10
14～17	50
17～20	29
20～21	6
21～0	10
	200

令和3年度

種別	件数
a尻餅	30
b転倒	31
c転落	12
d剥離	14
e打撲	10
f異食	6
g誤薬	3
h誤嚥	1
i骨折	5
j誤配薬	33
kトラブル	2
lその他	43
	190

時間	件数
0～7	15
7～8	17
8～10	26
10～12	27
12～13	8
13～15	25
15～17	28
17～20	31
20～21	8
21～0	5
	190

令和4年度

種別	件数
a尻餅	18
b転倒	25
c転落	15
d剥離	25
e打撲	15
f異食	5
g誤薬	7
h誤嚥	2
i骨折	8
j誤配薬	8
kトラブル	1
lその他	19
	148

時間	件数
0～7	19
7～8	12
8～10	23
10～12	18
12～13	9
13～15	14
15～17	25
17～20	17
20～21	1
21～0	8
	146

苦情受付（長命園）

令和４年４月１日～

No.	受付年月日	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	8 月 12 日	担当ケアマネ	利用終了後、家族に「ショートステイは使用したくない。」と話したとのこと。詳細を聞くと「トイレ使用後汚したら他の利用者に怒られた。」とのこと。事実関係等詳細を確認してほしい。	①介護記録の確認及び、職員の聞き取りを行う。 〈結果〉 「トイレをきれいに使え」と怒られている様子を見つけ間に入ったとのこと。他の利用者にも同じように注意していた事が確認できた。 ②担当職員から利用者に話をする。「トイレ掃除については職員が行うので伝えて貰う様お願いする。」 ③今後は、当事者同士が関わらないよう配慮する。また干渉が避けられないようであれば、別の階へ変更することとした。 ④ケアマネに報告。家族は継続利用を希望、本人の様子を見ながら利用可能時利用再開となる。
2	9 月 2 日	利用者家族	今病院に来ていますが、今日は受診日ではなかったでしょうか？ 確認してほしい。	①担当看護師に確認する。 受診前日に受診予約が入っていたが、入院前の受診で終了していた事からキャンセルした。家族も同席していたので、知っているものとして連絡をしなかった。 ②受診内容変更時は、必ず家族にも連絡し確認することとした。 ③家族に詳細を報告。 今後は必ず確認連絡する事とした。

小規模多機能型居宅介護事業所

やくものお家

令和４年度事業報告

2022（令和 4）年度
地域密着小規模多機能型居宅介護事業所
長命園やくものお家　事業報告書

今年度もコロナウイルス感染症の予防対策を考えながらの 1 年でした。当事業所でも 8 月にクラスターが発生し、5 日間の休業を余儀なくされました。ご利用者様やご家族様にはご理解ご協力を頂き、また少ない職員で協力し合いながら乗り越えることが出来ました。そのような中でもご自宅での生活が困難な方には泊まりの継続、独居の方や日中ご家族が不在の方などに対しての安否確認や排泄介助などの訪問を行いながら、サービスが途切れることのないよう実施し、小規模多機能ならではの柔軟な対応を行うことが出来たと思います。

平均介護度は 1.53 と年々軽介護化しています。例えば入院中に介護認定を受けた方が退院後に利用開始されるケースがありますが、自宅に戻り、住み慣れた家、大切な家族、なじみのある近所の方や地域で生活していく中で「自分も頑張らないと」との思いが強く、周囲の理解や協力もあり介護度が軽くなったケースがありました。在宅生活を継続していくうえで住み慣れた環境、顔なじみの関係の大切さを実感した例の一つでした。在宅生活を支えていくうえで、一つの事業所で「通い」「泊まり」「訪問」が行える小規模多機能という制度は、顔なじみの関係性が作れるとてもいいサービスだと思います。これからもご利用者様、ご家族様の思いを大切に、相談しやすい関係づくりをしながら在宅生活を支えていければと思います。

また、今年度は登録定員 25 名に対し月平均 21 名でした。
空きがあっても職員の人員不足により受け入れが出来ない状況もありました。募集をかけても、応募者がなかなかない状況が続いています。また、介護職員の平均年齢も上がってきており、今後ますますの人材不足も考えられることから人材の確保は大きな課題の一つだと思います。

「泊まり」に関しては 1 日平均 2.5 名。今まで泊まりゼロの日というのはありませんでした。しかし、ロングで泊まっておられた方が入院されたことから泊まりがいない状況が出てくることもありました。しかし、家族の介護負担もあり定期的に泊まりを入れられる方や、急な泊まりにも対応するなど、泊まりに関しても柔軟な対応が出来たと思います。

「訪問」に関しては月平均 107 回。加算の一つ「訪問体制加算」の条件であるひと月 200 件以上の条件には程遠い数字となりました。しかし、訪問の内容も一人ひとりのニーズに合わせた支援に対応が出来たのではないかと思います。1 回 10 分程度の訪問から買い物や掃除など生活支援と幅広く対応することが出来ました。

今後もやくものお家の基本理念「一人ひとりの尊厳を守り　安心の在宅生活支援」に基づきながらご利用者、ご家族が安心して在宅生活が送れるような支援を、職員が一つのチームとして協力し合いながら行っていきたいと思います。

1. 利用率の向上と安定的経営

前年度に比べて利用率は伸びてはいるが、登録定員 25 名を満たす月はなかった。要支援 1～要介護 1 の軽介護度の方が全体の 6 割を占めており、平均介護度も 1.53 と低く、報酬の伸びにも大きく影響した。新規利用者 8 名、契約終了者 7 名。契約終了者の内 2 名は長命園への入所であった。

2. 新型コロナウイルスに対する予防・対策について

今年度はクラスターの発生が 8 月にあったが、それ以来は事業所内での発生はなかった。感染対策として、毎日の検温、換気、手洗い、手指消毒など基本的な感染対策は引き続き実施していく。

3. コストの軽減

光熱費削減のために、電力会社の変更を行った。また、車両管理会社も変更した。

4. 職員間での情報共有・連携・質の向上と確保について

スタッフ会議では誰もが意見を言い、利用者支援に繋げることが出来たと思う。外部研修への参加は出来なかったが、施設内研修、毎月 e ラーニングによる研修を受けた。

5. 利用者の安全確保

ヒヤリハット 13 件、事故報告が 17 件あった。一番多いのが誤薬であった。同じ利用者に対しての報告もあった。飲む時間を間違えたり、確実に服用されず床に落ちていたのを発見したりと利用者側ではなく、職員側のミスである。再発防止のために意識して取り組むべきである。

避難訓練では、消防署の方に来てもらい評価をして頂いた。また、今までと違った避難口からの避難訓練も行った。

6. 地域との連携

コロナのこともあり、積極的なボランティアの受け入れを行うことが出来なかった。地域行事として八雲町の文化祭への出展に参加した。また、地域連携会議に出席し民生委員の方々と災害時についての意見交換をした。

7. 緊急時の宿泊ニーズへの対応の充実

登録者以外からのニーズはなかった。

8. 家族との連携

送迎時には話しやすい雰囲気づくりを意識し、家での様子やご利用者の近況などをお伺いしたり、こちらからは日中の様子など伝えた。体調不良時なども家族へ電話連絡し、情報共有をして対応するようにした。

9. 情報提供・公表・相談・苦情への対応

「やくものお家便り」を毎月発行し、活動状況など知って頂けるよう努めた。ご利用者だけではなく、入職した職員の紹介も載せたりしてコミュニケーションのきっかけにもなった。

「事故報告書」「ヒヤリハット報告書」「苦情報告書」は発生時には速やかに作成し、全職員で周知するよう徹底した。

運営推進会議を 2 か月に 1 回開催、また運営委員様によるサービス評価を運営推進会議にて受審した。

10. やくものお家の維持管理と環境整備

庭木の剪定や庭園管理はボランティアの方にきれいにして頂いた。除草作業は、職員が協力しな

がら行って何とか維持出来た。しかし、職員の負担も大きく以前のようにシルバー人材センターに依頼するなど考えなくてはいけないと思う。

※月別利用状況他　別紙にて報告

介護度別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
要支援１	4	4	3	3	3	3
２	3	3	4	4	4	4
要介護１	7	6	5	5	5	5
２	5	7	6	6	5	6
３	2	2	2	2	1	2
４	0	0	1	1	0	0
５	2	2	2	2	1	1
合計	23	24	23	23	20	21
平均介護度	1.55	1.61	1.72	1.72	1.38	1.46
通所／平均	313/10.4	344/11.1	336/11.2	315/10.2	234/7.5	247/8.2
宿泊／平均	123/4.1	116/3.7	98/3.3	91/2.9	57/1.8	32/1.1
訪問／平均	109/3.6	109/3.5	105/3.5	104/3.4	122/3.9	107/3.6
入院		1	1		2	1
退院			1	1		
新規	3	1				1
退所			1		3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援１	3	4	4	4	4	3
２	4	3	3	3	3	3
要介護１	5	5	5	5	6	8
２	6	6	6	6	6	5
３	2	2	2	2	1	2
４	1	1	0	0	0	0
５	1	1	1	1	1	1
合計	21	22	21	22	21	22
平均介護度	1.55	1.57	1.46	1.57	1.36	1.42
通所／平均	257/8.3	307/10.2	288/9.3	245/7.9	268/9.6	297/9.6
宿泊／平均	34/1.1	82/2.7	62/2.0	63/2.0	69/2.5	91/2.9
訪問／平均	122/3.9	118/3.9	119/3.8	115/3.7	92/3.3	62/2.0
入院			1	1	2	
退院	1			2	1	
新規	2					1
退所	1				1	1

介護報酬

4月	5月	6月	7月	8月	9月
3,161,270	3,565,430	3,589,790	3,539,630	3,135,710	2,950,580
10月	11月	12月	1月	2月	3月
2,989,820	3,331,040	3,143,210	3,259,170	3,043,580	2,929,780
合計	¥38,639,010				

介護報酬外

4月	5月	6月	7月	8月	9月
552,985	556,660	502,525	474,280	325,480	269,040
10月	11月	12月	1月	2月	3月
283,840	444,980	378,540	345,260	385,780	467,420
合計	¥4,986,790				

研修会等参加状況

月日	研修名	参加者
6/7	安全運転管理者講習	嘉本
10/20	高齢者虐待への対応	嘉本
1/30	ケアプランデータ連携システム説明会	嘉本
2/14	令和4年度　松江市給付適正化研修会	高橋･嘉本
2/15	高齢者福祉サービス経営セミナー ～介護の外国人材の定着に向けて～	高橋
2/22	身寄りがない人への支援ガイドライン研修会	嘉本
3/7	介護事業者のための業務継続計画(BCP) 作成セミナー(通所系)	高橋
3/17	令和4年度　高齢者虐待防止研修	高橋･嘉本

行事他

4/22	防災を学ぶDVD鑑賞	4/29	4月誕生会
5/25	5月誕生会	6/30	6月誕生会
8/30	8月誕生会	9/21.22	敬老会
9/30	9月誕生会	10/12	10月誕生会
10/15 ～21	八雲町文化祭	10/28	地蔵法要(龍源寺様)
11/7	11月誕生会	12/9	12月誕生会
12/15	クリスマス会 (大正琴グループだんだん様)	12/27	餅つき
12/28	忘年会 (カラオケボラ森山様)	2/9	2月誕生会
2/15	節分祭	3/28	3月誕生会
・書道　・絵手紙　・外出			

職員の動き

入職	退職
8/5～送迎担当	5/31～送迎担当
8/21～夜勤専属パート	8/10～短時間パート　ケアワーカー
9/26～看護師パート	8/31～看護師パート
10/4～看護師兼ケアワーカーパート	9/30～常勤パート　ケアワーカー
1/23～短時間パート　ケアワーカー	12/31～看護師パート
3/7～宿直担当	2/13～短時間パート　ケアワーカー
3/17～常勤パート　ケアワーカー	

研修生・実習生受け入れ状況

今年度はなし

ボランティア来所状況

庭木の剪定など（山崎様）

大正琴グループだんだん様

カラオケ（森山様）

その他

・4/26～大雨警報発令のため早めに切り上げる

・5/11～職員健康診断

・6/20～避難訓練

・7/6～建物定期調査（3 年に 1 回）

・8/14～18～コロナウイルスのクラスター発生のため休業

・8/19～通いサービス再開

・9/19～台風 14 号接近のため通いサービス短縮

・10/31～消防設備点検

・11/1～避難訓練

・1/25～大雪のため通いサービス短縮

・2/11～八雲地域婦人会様よりウエスの寄贈

・2/26～地域連携会議

・2 ヶ月に 1 回偶数月に運営推進会議開催

（コロナウイルス感染拡大予防のため 8 月中止）

介護支援専門員事業報告

① 利用者、家族との信頼関係が築いていけるよう「誠実に向き合うこと」を心掛けます。

⇒利用者や連絡の取りやすい家族とは信頼関係が築けていたが、連絡の取りにくい家族もいて充分とは言えなかった。

② 利用者支援にあたり、利用者の暮らしにあった支援が迅速かつ的確に行えるよう努めます。

⇒スタッフから情報を知ることも多くあり、確認をしながらその方の生活に合わせ支援を変更していくよう努めた。

③ 支援にあたり、知り得た情報を迅速にスタッフ間で共有出来るように努めます。
⇒知り得た情報を申し送りノートやカンファレンス、会議などでスタッフに周知するよう努めたが、情報が行き渡るまでに時間がかかることもあった。

④ 計画作成担当者として、制度に必要とされる記録や書類をきちんと揃え、ファイリングをします。
⇒記録や書類関係を揃えるように努めた。

⑤ 研修等に積極的に参加し、計画作成担当者としてのスキルアップにつなげます。
⇒参加出来る研修には参加するよう努めた。

ケアワーカー事業報告

① 基本理念である「一人一人の尊厳を守り　安心の在宅生活支援」を常に心にとめて、利用者の安全、安心を第一に考え、その人らしい生活を支援します。
⇒小規模多機能の特性を活かし、利用者、その家族に合わせた支援が出来たと思う。例えば通いから訪問への切り替え、急な泊まりへの変更など柔軟に対応出来た。

② スタッフ全員が一つのチームであることを自覚し、意見を言い合い解決に導くような議論が出来る集団として協力し合いながら利用者支援に努めます。
⇒カンファレンスやスタッフ会議などを定期的に行い、意見を言い合いながら支援に繋げることが出来た。また、支援を行う中で「〇〇の方がいいのではないか」など気付いたことを互いに考えながら支援が出来たと思う。

③ 介護技術、知識の向上を目指し、研修会や学習会に積極的に参加します。
⇒外部研修への参加は、決まった職員のみの参加であった。施設内研修ではWEB研修を毎月行っていたが、受講を忘れる職員も中にはいたため、全員が受講するようにしていかなければいけないと思う。

④ 身体機能の維持・向上、笑顔が引き出せるようなレクを提供します。
⇒花見や紅葉を見に出掛けたり、初詣に出掛けたりと季節を感じて頂けるような外出を行った。また、室内での活動ではその季節にあった作品作りを行ったり、ゲームの種類も少なくマンネリ化していたが、職員の工夫で新しいゲームを作ったりと、今までにないレクを行うことが出来た。また畑で出来た野菜や、旬の食べ物を使ったおやつなどを提供し、喜んで頂くこと事が出来たと思う。

⑤ 利用者、家族との関係を大切にし、明るい挨拶、傾聴する気持ちを持ち信頼関係を築きます。
⇒笑顔での挨拶を心掛け、送迎時など家族へ声がけをして情報共有を心掛けた。傾聴するよう心掛けてはいたが、業務が忙しい時にはゆっくり向き合うことが出来ないときがあった。

⑥ 利用者個人の持ち物を大切に扱い、返し間違いやしまい間違いのないように徹底します。
⇒記名があるにも関わらず、他の利用者の荷物へと入れ間違いがあった。思い込みで行わず、必ず確認してから片付けるよう徹底したい。

看護師事業報告

① 救命法の研修の企画実施をコロナ禍の状況を見て可能になれば行います。
⇒コロナ禍の状況が続き、企画実施が出来ませんでした。緩和されたら次年度は企画実施を行います。

② 研修以外にも資料を活用するなど、出来る範囲で知識や技術の向上に努めます。
⇒摂食･嚥下プロセスについての学習会を行い､スタッフ全員の知識や技術の向上に努めました。コロナ禍で定期的には行えておらず不十分だったと思います。

③ 利用者の状態把握と適切な対応が出来るよう、スタッフ間の情報共有、連携に努めます。
⇒スタッフ間の情報共有は、申し送りノート、毎日のミーティング、スタッフ会議で行い、必要時には家族へ連絡し、早めの受診を心掛けました。また、訪問リハビリの資料を回覧し、利用者の状態把握に努めました。新規の方の担当者会議はケアマネと看護師で行っております。

④ 症状に伴う処置、ケアが適切に行われるよう努めます。また、骨折や誤嚥などの安全面への対応に心掛けます。
⇒認知症が進行する上でのケアは、情報共有も統一したものになるよう心掛けているが、目の行き届かなかったところもあるかもしれません。褥瘡については、1日1回の処置を行い、状況を申し送り対応出来ているのではないかと思います。自宅での転倒後に利用されるケースが増え、状態や受診の有無、内容の把握を周知することの大切さを感じました。誤嚥については適切な食形態のものを提供し、自分で摂取出来る方は見守りをしています。食事介助の必要な方は、嚥下を確認しながら状態を見るようにしていました。

⑤ 薬の内容の周知に努め、確実な服薬に努めます。
⇒足元に錠剤が落ちており、時間が経って気付く、口腔ケア時にポロッと口から錠剤が出てくるというケースがありました。口腔内に入ったか、飲み込んだか、残っていないかを確認し、確実に服用するよう徹底する必要があります。

⑥ コロナなどの感染予防及び発症時の対応について検討し、スタッフ間の周知に努めます。
⇒オンライン研修を受けていますが、周知しているか再確認する必要があると思います。手指消毒、換気については声掛けを行い実施することが出来ました。

防火管理者事業報告

① 運営基準を遵守し、年2回の防災訓練を実施します。
⇒年2回の防火訓練を実施した。

② 防災意識を高め、全スタッフが多様な緊急時に対応出来るよう訓練します。
⇒利用者も交えての避難訓練を行い、消防の方からの指導も仰いだ。また、玄関以外からの避難誘導を行えた。

③ 火災の原因となり得る可能性のある電気器具などの管理を行い、修理、買い替え必要時は素早い対応を行います。
⇒電化製品の入れ替え時など点検し、冬場の暖房や電気器具の配線にも注意した。

④ 非常事態に備え、備品・備蓄品の管理、購入を行います。
⇒期限切れの防災食の買い換えや、足りない備品の購入をした。

安全運転管理者事業報告

① 運転規則を守り、事故を起こさないよう心掛けます。万一事故を起こした際にはすぐに警察に連絡します。また、車の損傷時は速やかに報告し対処します。
⇒大きな事故はなく、報告もきちんと出来ていた。

② 県道からやくものお家までの細い道は時速 20km を守り、近隣住民との事故を起こさないよ

う最新の注意を払います。
⇒ゆっくり走るよう職員には周知していたが、時間が気になりスピードが出ていることがあった。

③ 送迎、訪問時等の運転や乗降には慣れから気を抜かないよう、利用者にとって安心、安全の優しい運転を心掛けます。
⇒夕方や慣れた場所での事故が多く、送迎など狭い道を通ることが多いため注意が必要だった。

④ 運転時は少しの異常音や振動に対して敏感になり、事故予防に努め、半ドアや室内灯の消し忘れにも注意し、防げる故障に対処します。
⇒室内灯の消し忘れが何度かあり、気付いた職員が消していたため朝まで放置されることはなかった。

⑤ 台風や積雪などの状態により、充分な安全が確保できるよう指導し対応します。
⇒台風や積雪の状況により、時間をずらした送迎やデイを休んでもらうなどの対応をし、安全の確保に努めた。

苦情相談受付

No.	受付日	相談者	苦情・要望	対応
1	6/18	本人	6/17、夜間トイレに行った際に、何度も職員を呼ぶが来ない。パッドを替えたいのに呼んでも来ないから、パッドがなくて困った。	①センサーが反応したらすぐに行くこと。他利用者の介助中などですぐにいけないのであれば、終わり次第すぐに行く。 ②若しくは他利用者介助中であっても手を止めることができるのであれば、その方に待って頂き本人のところへ行く。その場で対応出来ることであれば対応し、前者の利用者が優先であれば本人に待って頂く旨を伝える。
2	2/14	長女	娘さんより電話にて話あり。 「先日の泊まりの時（2/10～11）痛み止めを飲んで間が 1 時間しか空いていないのに飲んだとメモが入っていたと母から連絡がありました。痛み止めは朝、夕につけているので、最低 6 時間は空けて飲ませてもらわないと。痛みがあるなら飲ませてもらいたいけど、6 時間空けることは守って下さい」	①痛み止めを飲んだ時間を確認し、服用する際は 6 時間空けるようにする。

公用車事故報告

No.	日時	場所	事故概況	車種	同乗者	被害状況
1	5/17 PM4:46	長命園玄関前ｽﾛｰﾌﾟ	長命園へ食事取りに行き、歩道に向かっている途中、戸井に左側ミラー接触する。	ｽﾍﾟｲﾄﾞ	無	左ミラー傷
2	6/ 1 PM4:25	I様宅玄関前	利用者送り時、玄関前に駐車しようとし、側溝に接触。	ｱﾄﾚｰ	有	バンパー左側、タイヤホイール 傷

事故・ひやりはっと報告

令和4年度　　長命園　やくものお家

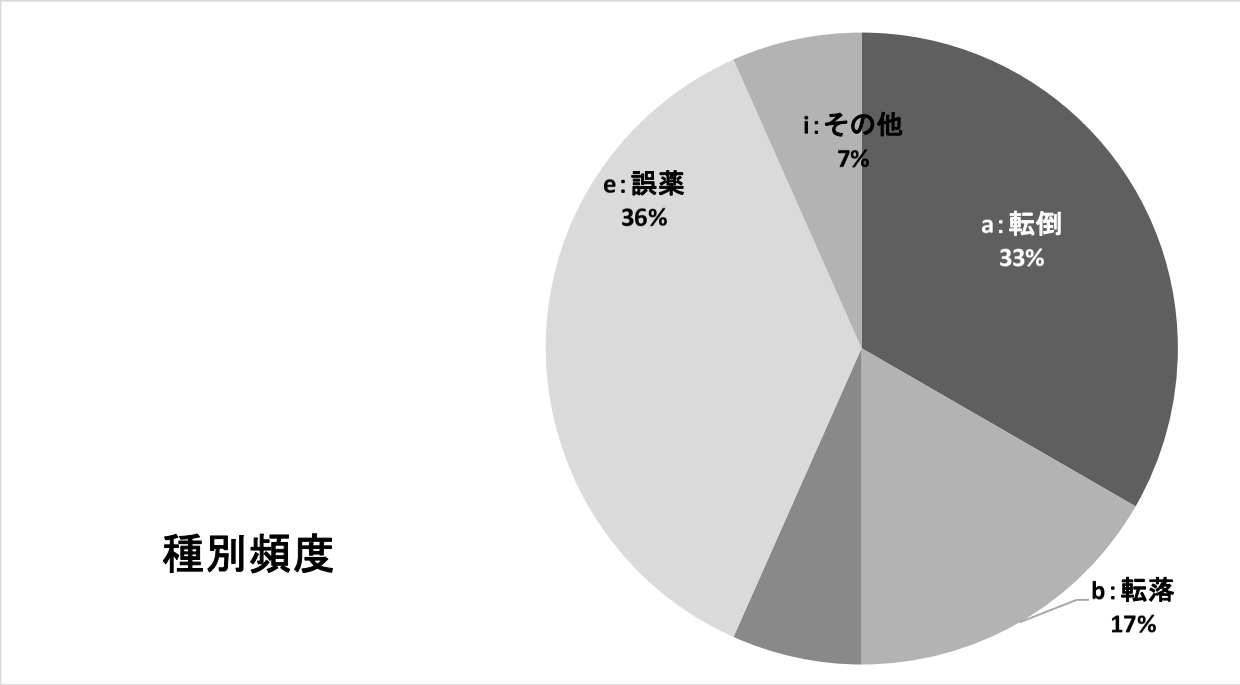
No.	月日	時間	氏　名	種別	内　　容	対　　策	程度	介護度
	ひやりはっと報告							
1	4月14日	0:40	A	e：誤薬	寝る前の薬を本人に渡す前に、2錠のはずが3錠セットしてあることに気付く。	薬セット時に1回分の量の確認。看護師→リーダー、リーダーから夜勤者へと薬を確認する際に、名前、日付、〇〇後などの他に錠数も確認する。	A	要介護1
2	6月16日	9:20	B	a：転倒	玄関の上がりかまちを上がる際にふらつき、転倒しそうになる。近くにいた職員が支えるが、体勢が崩れていたためそのまま床に座ってもらう。	段差があるところでは側に付き添い支える。	A	要介護1
3	7月5日	17:50	C	e：誤薬	リーダーからの送り時、薬の確認で文字が見えづらく、確認し直すと「朝食前」の漢方薬に「朝食後」と記入がしてあった。	薬に名前、日付、時間帯を記入後に再確認。申し送り時に声出し確認、文字もしっかりと確認する。薬をカップへ入れる時、服用時にも声出し確認し文字をしっかり見る。	A	要支援2
4	10月1日	10:18	D	a：転倒	ラジオ体操を立って行っている際にバランスを崩し、転倒しそうになった。	座って体操をされる方もおられるため、声がけをするが立ってしたい方のため、体操時は近くで見守る。	A	要介護1
5	11月3日	12:30	E	e：誤薬	昼食後、口腔ケアへと動く際に机の足下2カ所に薬が2錠落ちているのを発見する。（調べると朝食後薬であった）	食事の最後に薬を持って行き、飲み込みまで確認する。	A	要介護2
6	11月4日	12:20	F	e：誤薬	昼食後に、薬を本人の手のひらに3錠出し、服用するよう声がけした後、その場から離れて他利用者の介助行った。本人から薬を落としたとの訴えがあり、テーブルの上に1錠、下に2錠落ちていた。	本人が確実に飲み込んだ事を確認する。	A	要介護1
7	11月24日	9:40	E	e：誤薬	荷物置き場の前の床に薬が1錠落ちていた。	服薬時、確実に飲み込んだ事を確認する。	A	要介護2
8	11月26日	18:00	G	e：誤薬	夕食後薬の日付記入が、翌日になっていた。	申し送り時、薬をカップへセットする際には、名前、日付〇〇後など声出し確認をする。	A	要介護1
9	11月28日	17:25	G	e：誤薬	夜勤者への申し送り時、薬の確認をしていたら朝食後薬にマグミット錠がついていなかった。	看護師は確実に薬のセットを行う。看護師→リーダー、リーダー→夜勤者への申し送り時は2人で声だし確認をしながらチェックすること。	A	要介護1

10	12月15日	13:20	H	e：誤薬	リビングのクリスマスツリーの下に薬が落ちていた。確認するとH様の薬だった。当日は本人休みのため、前日の夕食後薬だと思われる。	服薬時、必ず飲み込むまで見届ける。	A	要介護2
11	1月20日	12:40	I	e：誤薬	昼食後、うがいをした際に薬が出てくる。	服薬介助を行い、飲み込んだ事を確認する。口腔内に唾液をため込んでいることから、必ず声掛けをし口腔内を確認する。	A	要介護2
12	1月31日	12:20	E	i：その他	居室で休んでいたが、センサーマット、コールをセットしていなかったため、部屋から大声で叫ぶ。訪室すると自力で車椅子に移乗し、部屋の入り口まで出ていた。	センサーマット、コールのセットを必ず確認する。慣れによる気の緩みに注意し、緊張感を持って対応にあたる。	A	要介護2
13	3月7日	16:55	J	e：誤薬	リーダーから夜勤者への送り時、薬の確認をする際、宿泊利用者であるのに夕食後薬、朝食後薬ともにセットしていなかった。名前の札もなかった。	予定表を確認しながら薬をセットする。看護師からリーダー、リーダーから夜勤者、遅番がカップへセットする際にも、確認漏れがないよう必ず宿泊利用者、薬を確認する。	A	要介護2
	事故報告							
14	5月4日	16:10	H	a：転倒	リビングで送り出しの解除中に本人が1人で席を立とうとしたところ足が滑り右側に大きく傾き、椅子より落ちる。後方の机も大きく動く。	靴を履くときに、かかとを踏んで履くのではなくきちんと履いてもらう。制止することは出来ないため、可能な限り見守りをする。	A	要介護2
15	6月26日	13:00	K	i：その他	ベッドに休もうと車いすからベッドへ移った時に、左手がベッド柵の中に入り、足を上げようとした時に大声をあげる。すぐには痛みの訴えはなく様子をみていたが、午後、手の腫れが強くなり、動かすと痛みがある。	移乗時は常に左手がきちんと体の上にあるように確認してから次の行動に移る。	B	要介護2
16	6月29日	5:00	K	b：転落	ベッドから自分で降りようとしたらしく、そのままベッド横にしりもちをついて座っているところを巡回時に発見する。	危険認知が乏しく、自分で動こうとするため、危険予防にベッド下にマットを敷き、その上にセンサーマットを置く。	A	要介護2
17	7月12日	12:30	C	a：転倒	昼食後5号室に入ろうとした際、片方の靴が脱げずバランスを崩し転倒。	和室での午睡は避ける。その日の状況により、どうしても和室になる場合は、立ったまま靴を脱ぐのではなく、椅子に腰かけて脱ぐように声掛けをする。	B	要支援2
18	7月19日	14:40	K	b：転落	ベッドからマット上に落ちている。	センサーマットがきちんと鳴るかを確認する。受信機の充電、電源を必ず入れる。午睡時に巡回する。	A	要介護2
19	9月10日	8:00	L	a：転倒	身支度後、ベッドから少し離れた棚から荷物を取ろうとした際に転倒。	コールを渡し、その都度押すよう伝える。ベッドで端座位になり身支度をする際は、荷物を手の届く場所に置くようにする。	A	要介護2

20	9月16日	0:45	L	a：転倒	トイレに行った後に、センサーマットのスイッチを入れるのを忘れており、杖の音に気付き行くと、ベッドから下に降り、杖を持ちながら這ってドア付近まで移動していた。	センサーマットのスイッチを入れたかどうかの確認を確実に行う。また、転倒にもなりかねないので、出来るだけ就寝時は靴下を脱いでもらう。	A	要介護2
21	9月24日	9:15	M	c：外傷	迎え時に、キャッシングアップをして端座位になり車いすへ移乗するため声掛けをし行おうとするとPバーに手が挟まり移乗できず。再確認し移乗するも、挟まった右手首に表皮剥離が出来る。	手の位置の確認。移乗時は特に注意する。	A	要介護5
22	9月28日	11:00	N	a：転倒	入浴時、臀部を洗う際に手すりにつかまって立ち上がる途中ですべって転倒する。	入浴時やトイレ介助時には2人介助で行う。	A	要介護3
23	10月5日	11:00	F	a：転倒	レクリエーション中、ボールを投げた直後にバランスを崩し、よろめくように左側へ倒れこむ。近くに椅子があり、左腹部を打った様子。	転倒の危険が予測される方なので、椅子に座って投げるように促したり、すぐに対応できるよう本人の後ろで見守りをする。	C	要介護1
24	11月22日	1:20	E	c：外傷	トイレに入る際に、ドアを開けドアノブをつかもうとした時に手が滑り、トイレのドアに額左側をぶつけてしまう。	利用者の動きに注意して介助する。	A	要介護2
25	11月22日	17:10	M	b：転落	自宅へ送った際、車いすに座った状態でパジャマの上着を着替えていた際に車いすからずり落ちる。	車いすには深くしっかりと座ってもらう。	A	要介護5
26	12月11日	9:15	E	e：誤薬	朝食後薬を飲んでもらおうと薬を見たら、朝食後薬がなく本人の眠前薬が残っている。昨夕20時頃に眠前薬ではなく朝食後薬を服用していた。	服薬時には必ず、名前、日付、〇〇薬と声出し確認をして服薬介助を行う。何気なくするのではなく、集中して取り組む。	A	要介護2
27	12月20日	5:15	L	b：転落	巡回時、ベッドで横になっているのを確認し、他利用者と話をしている際にセンサーが鳴り、訪室するとベッド下に座った状態でいる。靴を履こうとして滑って落ちたと本人談。	センサーが鳴ったらすぐに部屋へ行く。	A	要介護2
28	2月18日	16:10	F	a：転倒	気付いたらリビングのテーブルの下に座っていた。音もなく滑って座り込んだ様子。椅子は本人より少し離れたところにあった。	本人の動作に注意する。	A	要介護1
29	3月11日	10:30	D	a：転倒	庭の梅の木をを見て写真を撮ろうと立ってもらった際に、後ろにバランスを崩し、後ろに下がりながらそのまま転倒する。石で後頭部を打つ。	必ず杖を持ってもらう。歩く状態にも気を付けて見守りをする。	A	要介護1
30	3月18日	13:00	M	b：転落	昼食後、居室にて車いすからベッドへ移乗する際に、力が入らずゆっくりと床に座り込む。	1人で介助が難しい場合は、声をかけて代わってもらうか、2人介助をする。マットレスの上にエアマットがあり、高さがあったためマットレスを外し、ベッド座面を低くする。	A	要介護5

	程度
A	受診なし
B	受診（擦り傷・打撲）
C	受診（骨折）

種別	頻度
a：転倒	10
b：転落	5
c：外傷	2
d：誤嚥	0
e：誤薬	11
f：異食	0
g：自傷	0
h：行方不明	0
i：その他	2



（まとめ）
本年度は、30件の報告があった。内、ひやりはっとが13件、事故報告が17件。一番多いのが誤薬で11件。次に多いのが転倒で10件である。誤薬は明らかに介助者のミスである。看護師からリーダーへ、リーダーから夜勤者へと、必ず2人で声出し確認をすることで防げるものである。また、本人服用の薬ではあったが、眠前薬と間違えて朝食後薬を服用するなど、これもまた声出し確認をすることで防げたはずのものであった。話をしながらなど、「～ながら」で行うのではなく、記載してある名前と本人が一致しているかどうか、服用時間は合っているかどうかを集中して行わなければならない。確実に服薬して頂けるように、最後まで確認することを徹底したい。また、薬は1つ間違えれば命にも関わることの認識を持ちながら支援することを徹底したい。
転倒に関しては、身体機能低下によるものも多くあるが、それを踏まえて利用者支援をしていかなければならない。そのため、利用者個々のアセスメントを行い、利用者の安全を確保していかなけらばならない。また、センサーのスイッチを入れたとの思い込みから、利用者の動きを把握することが出来ないこともあった。確認作業を怠らず、やはりこれも声出し確認をすることが必要なのではないかと思う。利用者の近くにいたが、とっさの判断が出来ず転倒してしまい、肋骨にひびが入るという事案もあった。激しく転倒したわけではないが、やはり高齢者であるため転倒による骨折などはリスクが高いことを把握し、利用者の安全に気を付けていきたい。
一人一人の状況を把握するためにも日頃からの関わりを大切にし、また職員間での気付きや情報共有などを行い、個々に合わせた支援を行っていこうと思う。

令和４年度　月別利用状況

R3年度合計		介護報酬	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年比
33	支援１	￥ 3,438	4	4	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	41	8
51	支援２	￥ 6,948	3	3	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	41	−10
76	介護１	￥ 10,423	7	6	5	5	5	5	5	5	5	5	7	8	68	−8
26	介護２	￥ 15,318	5	7	6	6	6	6	6	6	6	6	5	4	69	43
27	介護３	￥ 22,283	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	2	22	−5
5	介護４	￥ 24,593	0	0	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	6	1
22	介護５	￥ 27,117	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16	−6
240	登録者合計（末集計）		23	24	23	23	20	21	22	22	22	22	20	21	263	23
3267	デイ利用数		313	344	336	315	234	247	257	307	288	245	268	297	3451	184
1083	宿泊利用数		123	116	98	91	57	32	34	82	62	63	69	91	918	−165
1474	ﾍﾙﾌﾟ利用数		111	109	108	110	125	116	123	121	120	119	93	67	1322	−152
¥33,959,010	介護報酬		￥3,161,270	￥3,565,430	￥3,589,790	￥3,539,630	￥3,135,710	￥2,950,580	￥2,989,820	￥3,331,040	￥3,143,210	￥3,259,170	￥3,043,580	￥2,929,780	¥38, 639, 010	¥4,680,000
¥5,114,970	その他報酬		¥552,985	¥556,660	¥502,525	¥474,280	¥325,480	¥269,040	¥283,840	¥444,980	¥378,540	¥345,260	¥385,780	¥467,420	¥4, 986, 790	¥−128,180
¥39, 073, 980	合計		¥3,714,255	¥4,122,090	¥4,092,315	¥4,013,910	¥3,461,190	¥3,219,620	¥3,273,660	¥3,776,020	¥3,521,750	¥3,604,430	¥3,429,360	¥3,397,200	¥43, 625, 800	￥4,551,820
13人	新規登録者		4/1男性(3) 4/14女性(1) 4/16女性(2)	5/3女性(2)				9/9女性(3)	10/5女性(1) 10/31男性(4)					3/21女性(1)	8人	
13人	利用中止者				6/27女性(1)		8/2女性(5) 8/15男性(3) 8/23女性(4)		10/21女性(1)				2/17男性(4)	3/31女性(1)	7人	
	昼食数		330	364	353	332	250	265	274	324	303	257	283	313	3648	
	夕食数		151	152	137	131	86	68	77	121	103	85	111	150	1372	
	朝食数		121	119	98	90	58	31	31	82	65	60	68	131	954	
¥262,348	ガス代金		¥27,725	¥21,406	¥21,406	¥14,470	¥10,736	¥16,604	¥19,805	¥23,540	¥30,475	¥26,207	¥26,741		¥239, 115	¥−23,233
¥1,212,114	電気代		¥158,503	¥92,273	電力会社変更による請求日変更により計上なし	¥52,458	¥62,350	¥65,119	¥64,724	¥45,607	¥100,550	¥200,615	¥262,988	¥232,170	¥1, 337, 357	¥125,243
¥389,499	水道下水道代		¥36,377	¥36,377	¥37,862	¥37,862	¥29,447	¥29,447	¥26,477	¥26,972	¥28,952	¥28,952	¥27,962	¥27,962	¥374, 649	¥−14,850
¥827,150	ｶﾞｿﾘﾝ代		¥57,364	¥61,568	¥53,820	¥58,216	¥68,103	¥55,751	¥55,206	¥59,741	¥53,226	¥63,981	¥60,173	¥53,986	¥701, 135	¥−41,789
	灯油代		¥17,152									¥15,792	¥20,868	¥30,414	¥84, 226	

こばと保育園

令和４年度事業報告

こばと保育園　２０２２年度事業報告書

＜保育園をめぐる情勢＞

・新型コロナウィルスの感染対策を行いながらの保育は３年目となった。園内での感染が拡大しないことを願いながら保育や園行事を行ってきた。子ども達のマスクの着用については、各園の判断に任せられていたため、対応は各園様々だった。こばと園内では着用していなかったが、バスやタクシーに乗る際や他園との交流保育の活動内容によっては着用するようにしていた。また休園についての判断（休園日数）や PCR 検査の有無について、施設に委ねられていたため判断に苦労し、他園の情報を聞きながら対応していた。

　新型コロナ感染に関係する欠席については、保育料や給食費が減免の処置をとられて保護者にとって大変良かったが、保育園の事務処理の負担は大きくあった。

・少子化が急速に進み、全国的に保育園の入所人数が減ってきている。軒並み 0 歳児の入所が各園大きく減少している。松江市内の保育園においても、2022 年度スタート時に、保育定員を減らした園や定員割れからの新年度スタートの園もあった。こばと保育園では 4 月スタート時は 0 歳児 11 名（2021 年度 16 名）で 3 月末は 20 名にはなったものの、2023 年度はかなり厳しい状況からのスタートになる。国や自治体が、少子化対策により力を入れていくことが必要である。

・職員の配置基準において、今年度も国として大きな改善策をとる方向へとは進まなかった。しかし不適切な保育の報告がある中、職員数の少なさが要因の一つとも言われている。2023 年度には国としての改善対策を打ち出していく方向が感じられているが、職員が安心して保育できる環境に、また子ども達にとっても安全にのびのびと過ごせる環境になるように対策を早急にとる必要がある。

＜こばと保育園では＞

・新型コロナの感染があったが、園全体を休園という措置にはせず、感染拡大しているクラスのみ学級閉鎖を行い、感染対策を取りながら保育を行っていった。

・新型コロナ対策として、天気の良い日には園庭からの迎えにしたため、園庭の門扉を二重にして、子ども達の安全に務めた。

・園内行事は、保護者や職員で話しをし、子ども達の安全を一番に考えて中止にしたり規模を縮小したりと対応した。運動会は、0.1 歳児と 2～5 歳児は別日で行い、密を避けて開催していった。子ども達の姿を直接見てもらうことが出来て、保護者の方は喜んでおられた。

・地域の方や老人施設の方との繋がりを大切にしたかったが、コロナ禍の中で交流することが出来なかった。

・今年度はクラス懇談会を開催し園での様子を伝えていったが、こばとの保育方針を十分に伝えることが出来なかった。

２０２２年度　　事業報告（年間行事）

こばと保育園

月	園内行事	保護者会行事	年長行事	その他
4	入園の集い			
5		大掃除、草取り		尿検査
6			笹巻きづくり	内科検診 歯科検診
7			合宿（こばと）	
8				
9	4,5 歳キャンプ			
10	親子運動会		三瓶登山合宿（１泊）	歯科検診
11	芋煮会	秋祭り ４，５歳児遠足(一畑薬師)	干し柿作り	松江市一斉開放日 内科健診
12	クリスマス会	餅つき大会（3.4.5 児）		
2023.1			合宿（こばと泊）	
2	節分		雪山合宿（こばと泊） 松江部合同リズム (こばと泊、２泊３日)	新入園児面接
3			合宿（こばと泊） ３泊４日	
4	卒園式 ※ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ対応により延期したため			

＊ クラス懇談会　各クラスによって随時
＊ 避難訓練・消火訓練毎月１回　（年１回不審者対応）
＊ 誕生日会・お弁当の日・身体測定・・月１回

今年もコロナ禍のため話し合いをしながら、開催時期や行事の内容・参加者を決めて、例年とは違う形で安全を配慮しながら行っていった。

２０２２年度年間総括【りす組】～０歳児～

保育目標：・眠る、食べる、遊ぶのリズムが安定し、機嫌よく生活する
・保育士との信頼関係を大切にし、情緒の安定を図りながら意欲的に生活する

＜生活＞

食事・・・全体的に食べる意欲があるクラスで、手づかみやスプーンを使って意欲的に食べる姿が見られる。

睡眠・・・年度当初はまとまって寝ることができなかったり、寝るのに時間がかかったりする子もいたが全体的によく寝るようになった。

着脱・・・自分のロッカーが分かり、月齢の高い子は自分で服を取り、パンツを履こうとする姿が見られる。

排泄・・・「ちっち」とおしっこがでると伝えてくれたり、おしっこがでるとその場から動かずでたこと教えてくれたりと排尿、排泄の感覚が少しずつ分かってきている。

＜遊び＞

外遊び・・・外遊びが好きで、自ら部屋を出て行く子が多い。前半は水、泥にしっかり触れて遊んできて、嫌がることなく感触を楽しんでいた。後半は道具を使い、保育者の模倣をしておままごとをする姿もあった。

散歩・・・月齢や発達に合わせて、少人数での散歩をしていく中でしっかり歩くことができるようになったり、自然物にも目がいくようにもなったりしていった。

絵・・・・横線やグルグル丸を描くようになり、線も太くなった。

仲間・・・友だち同士追いかけっこをしたり、名前を呼び合ったりするようになった。物の取り合いのトラブルも増えてきたが、噛みつきや引っかきは比較的少なかった。

＜認識＞ 身振りや簡単な言葉で意思をしっかり表現するようになる。

＜リズム＞ロピアノでリズムを始めると自然と体を動かし、表情よくリズムに参加している。模倣を楽しんでやっていた。毎日の金魚、お馬の親子は継続してすることができた。

＜評価・反省＞発達に合わせて活動を分けることで一人ひとりのことをしっかり把握して保育することができた。

＜保護者支援＞懇談会・個人懇談・紙面懇談・おたよりなど、さまざまな方法でアプローチをするようにしていった。保育園のことや保育方針を伝えることはできたが、コロナ禍で行事が少なく保護者同士の繋がりを深める機会が少なかったことは今後の課題にしていきたい。

２０２２年度年間総括【うさぎ組】～1歳児～

保育目標

・保育者と一緒に水・砂・土に触れて遊ぶ

・生活や遊びの中で自分でしようとする

生活

・**食事**　年度当初よりも食べる量が増える。苦手な物も食べようとする子が増える。食事が終わってもずっと座っている子が多かったが、自分で終わりを決めて片づけるようになる。

・**睡眠**　午睡が短い子が多かったが、夏ごろからしっかり寝られるようになる。まだ目覚めが早い子はいるが布団でじっとできる。寝つきには時間がかかる子はいる。

・**着脱**　年度当初から自分でしようとする子が多かった。今では月齢の小低い子も自分でしようとし、できるようになる。

・**排泄**　年度後半から月齢の高い子どもたちはトイレに座るようになる。月齢の低い子もその姿を見て座ろうとする子が増えるがまだ出ない子が多い。排泄で衣服が濡れていても教えてくれない子もいるので声がけをしていき、その都度綺麗にしていくようにしていった。

あそび

・園庭　一年を通して水、砂、土に触れて遊んできた。年度当初は泥に触れると汚れを気にする子もいたが今では全く気にせず遊べるようになった。見立て遊びも集中して遊べるようになり自ら庭に出て遊ぶ子が増える。

・散歩　秋ごろから本格的に出かけていった。月齢差があったので③グループに分かれて出かける。足腰も強くなり、長距離を歩けるようになった。

・室内遊び　アスレチックを作り、しっかり体を動かして遊べるようにしていった。年度末には肋木渡りも出し。怖がりながらも自分でしていた。まてまてあそびも繰り返し楽しみ、参加しなかった子もするようになったり、「まてまてしたい」と言って誘ってくれるようになったりしていった。

・絵　室内遊びをしている横で１人ずつ絵を描くようにしていった。描きたい子が多く、一人が満足いくまで描けるようにしていった。慣れてくると他の子が描いていても気にせず好きな遊びを楽しめるようになる。どの子も描くことが楽しくなり何枚も描いていた。

認識

・絵本　絵本はよく見る子が多かった。後半にかけてストーリー性のある絵本を選んでいくとさらによく見ることができ、全員楽しんでいる。落ち着きがない子もいたが膝の上で見たり絵本の貸し出しなどしてくと少しずつ見られるようになる。

・言葉　言葉が増え会話ができるようになる。ほとんどの子が自分の思いを言葉で伝えられるようになる。会話が成り立たなかったりその場とは違うことを言う子もいる。

・友だちとの関わり　友だちの名前を覚え、呼んだり関わろうとする子が増える。友だちの困っている姿や泣いている姿を見て助けようとしたり、寄り添ったりする場面がある。

保護者支援

　まずは保護者と信頼関係を築くことを大切にしていった。保護者自身が不安定なところがある家庭もあり、話を聞くだけで生活リズム改善までは要求できなかった。紙面懇談ができ、紙面の中で正直な話ができて良かった。

２０２２年度年間総括【こじか組】～2歳児～

保育目標

・一人ひとりが安心して園生活を送り、自分を出せるようにする。

・基本的な生活習慣の自立を目指し、身の回りのことを自分でしようとする。

生活

・食事　全体的に食への意欲があり、毎日しっかり食べて、残食はほぼなかった。苦手な物がある子もいるが自ら食べられるようになった。夏ごろからおかわりをする子が増えた。

・睡眠　年度当初は12：30までに、秋ごろからは13：00までには寝ているようにし、14：30には起こすようにしてきた。1人で寝ることができることも増えた。

・着脱　靴、衣服の着脱は自立した。月齢の高い子は立って着替えることができるようになってきている。

・排泄　自らトイレに行って排泄できるようになった。排便時は自分でお尻を拭くことのできる子はまだ少なく、担任が拭いている。

あそび

・園庭遊び　泥団子作り、泥遊び、水遊び、砂遊び、ままごとなど積極的に園庭に出て遊んでいた。しゃもじを求める子が多い。友だち同士でしゃもじを交換したり、貸し合ったりする姿もあった。集団遊びもむっくりくまさんなどを1年を通して楽しんでいた。

・散歩　年度当初は少人数での散歩をしたり、近場の散歩を楽しんだ。夏ごろから全員で出かけるようにし、距離も伸ばしていった。自然物にも気付けるようになり、積極的に見つけたり、拾ったりしていた。

・友だちとの関わり　子ども同士の関りが増え、子どもだけでもしっかり遊べるようになってきた。トラブルもまだ多いが、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを聞いたりできるようになっている。

・絵　丸が閉じ、顔や頭足人を描く子が増えた。描くことは好きな子が多く、楽しんで描いていた。

認識

・言葉　1年を通してほとんどの子が、自分の思いを言葉で伝えられるようになった。子ども同士でも遊びの中で言葉のやり取りを楽しんだりする姿もあった。家庭での出来事も正確に話すことができるようになった。

・絵本　月齢の高い子は長いお話でもしっかり聞いて見ることができるようになってきた。全体的に車のお話が好きな子が多かった。大型絵本なども読んだりし、子どもたちもよく見ていた。

リズム・ロール

・リズム　体を動かすことが好きな子が多く、子どもたちから「リズムしたい」と言う子が多かった。クラスだけでリズムをしたり、子どもたちのリクエストに応え、楽しんでやっていた。

・ロール　午睡後にすることが多かった。一対一の触れ合いを求める子が多く、喜んでやっていた。

保護者支援

　クラス便りや連絡ノート、送迎時に口頭で子どもたちの様子をしっかり伝えていくようにした。毎日少しでもコミュニケーションを取るようにし、信頼関係ができていったので良かった。6月頃に個人面談を行った。保護者としっかり話すことができたので良かった。懇談会は3回行い、少しでも保護者同士の交流ができたので良かった。懇談会では学習会を取り入れていけたらよかった。

２０２２年度年間総括【こぐま組】～３歳児～

保育目標・・・基本的な生活習慣を身につけ、友だちと楽しく生活する

生活

全体的に生活面で幼い子が多く、夏の数か月間小グループ（６人）を作り生活面のみ部屋を別にして過ごした。落ち着いて過ごせ、丁寧にゆったり関わることができてクラス全体としても良かった。

食事～盛り付ける量を調整し、食べきることとお代わりをすることの喜びを経験する。後半は残食が無くなりよく食べるようになった。全体的に食事の時間が落ち着いたものになり食事量も増えたが、未だ食事の席にすぐにつけない子がいる。

睡眠～ほとんどの子が一人で寝られるようになるが、寝かしつけが必要な子、入眠に時間が掛かる子がいる。

排泄～全員がトイレで排尿ができるようになるが排便をパンツの中でする子が数人いる。排便時にお尻が拭けずに大人に拭いてもらう子がいる。また気に入らないことがあるとその場で排尿をする子がいる。

着脱～長袖が脱げない子、一人で着脱が出来ない子がいたが一人で出来るようになる。脱いだ服の片付けはまだしにくい子が多くいる。半袖と長袖の区別がつかず、何度も大人に確認する子がいる。

遊び

園庭遊び～汚れることに抵抗があった子が、裸足で遊べる、泥んこ滑り台を楽しめるようになる等、思い切り園庭遊びを楽しめるようになった。子ども同士でままごとを楽しむ、砂場遊びを楽しむ等の姿も多く見られるようになった。

集団遊び～年間通して単純な鬼ごっこを繰り返す。むっくりくまさん、タッチ鬼、後半はバナナ鬼を好み繰り返し楽しんだ。バナナ鬼はルールを追求せず楽しむだけのものであったが、次第に大まかなルールを理解していった。

散歩～　秋頃から本格的に散歩に出掛ける。目的に向かって楽しみながら長い距離を歩き足腰が強くなる。沢山の自然物に出会い、繰り返し採りに行くことで子どもの意欲や関心につながり子どもが自然物に対して夢中になれる姿があった。

製作～紙飛行機、サンタさん、豆入れを繰り返し織るようにすると、自分で折れるようになった子が沢山いた。まだ分からない子に対して教える子どもの姿があった。製作活動では個別対応が必要な子もおり、別室で活動するようにした。

クッキング～柏餅、カレー、オムライス、ホットケーキ、栗餅、などたくさんのクッキングをした。とても楽しんでおり、食べる意欲にもつながったと感じる。自分たちで採ってきたものを食べること、育てたものを食べることは子どもにとっても特別な経験だった。

友だち～　友だち同士誘い合ってままごとやごっこ遊びをするようになり、担任より友だちを求めるようになる。中には特定の友だちに対して依存している子がおり、関わり方が強引な様子がある。

絵～家族、友だちがたくさん出るようになるが春からの変化がなかった子もいる。

認識

言葉～言葉がはっきりしなかった子がはっきり話すようになる。言葉や認識面で幼い子がいる中、反対に物事が分かりすぎている子がおり、クラスの中でもアンバランスさがある。

お話～落ち着いてお話が見られない子、幼い内容のものを好む子がおり、個別で対応することがある。後半は簡単な昔話なども楽しんでみられるようになった

保護者支援、自己評価

個人面談を今年度も行う。特に新入児の保護者とは、信頼関係を築き安心して通ってもらえるように努めた。支援が必要な子が多く、子どもの姿を共有してから相談機関につなげるようにした。基本的生活習慣を大切にし、シンプルな生活を繰り返してきた。子どもの様子を見ながら生活面での工夫や対応を担任間で相談しながら保育を進めた。支援が必要な子が多くいるがその他の子に対しても細やかな配慮や関わりが必要だったと反省する。

２０２２年度年間総括【ばら組】～4歳児～

【生活】

食事・・・・４月当初は残食もあったが秋以降残すことが減る。まだ姿勢が崩れる子がいる

睡眠・・・・眠りにくい子のみ身体をさすり、ほとんどの子が１人で眠れるようになる

排泄・・・・ほとんどの子が自分で拭くことができるようになる

着脱・・・・前後が分かりにくい子が数名いる

清潔・・・・男子は手を洗わずに食事へ向かう子が多い

【あそび(仲間づくり・絵も含む)】

戸外遊び・・園庭に出てよく遊ぶ。泥んこ、集団遊び(バナナ鬼)などクラス全体で楽しむようになる

散歩・・・・長距離を歩けるようになり、前後の差が縮まる。自然物に興味を持ち、夢中になって採る子が多い。

飼育・・・・カナヘビ、かまきり、カブトムシなどの身近な生き物の世話をし親しみを持つ

絵・・・・・女子らは食後などによく描いていたが、描かない子は全く描かなかった

仲間・・・・友だちを求めて誘い合って遊ぶようになる

【認識】

認識・・・・認識的に幼い子はよく一緒に活動している
月齢の高い子が幼い発言をすることがある
ルールがわかるようになり友だちに伝えられるようになる

空間認識・・道路の真ん中を歩いてしまう子がいる

言葉・・・・語彙が増え、日常会話がスムーズになり友だちと会話を通して仲が深まる

絵本・・・・長い絵のないお話を集中して聞ける子が増えるが、幼いころから見にくかった子らは集中しにくい姿がある
話が聞けない子は個別に読むようにすると読める

【リズム・ロール】

リズム・・・亀で腰が上がるようになる子が増える
待つ際に隣同士で話す姿が多い
スキップができるようになり自信がついた子がいる
トンボで止まることができず、ぐらぐらする子がいる(男児が多い)

ロール・・・昼寝起きに自ら来てする。脱力できるようになる子が増える

【保護者支援】

子どもたちの様子を送迎時やノートなどで詳しく伝えていった。また、気になる子の保護者については個別に面談をするなどした

【自己評価】

友だちの前で自分の思いが言えるようになるため、担任が介入しすぎないようにすることができた。

２０２２年度年間総括【ほし組】～５歳児～

保育目標・一つの目標に向かい力を合わせて活動し達成感や充実感をみんなで味わう

＜生活＞

食　　事・合宿を重ねる事に子ども達の食欲に変化が見られ全体的によく食べられるようになった。
・子ども達が中心となって準備や片付けができるようになった。友だちのことも思いながら考えて動けるようになった。

排　　泄・色々な課題や行事に不安になり、トイレが近くなる、排便が出来なくなる等、精神的な面が排泄につながる子がいた。

睡　　眠・寝付きにくい子が多いクラスであったが、後半は自分で体が休められるようになった。

整理整頓・自分の物が管理できず落し物が多かったが、日々の保育を通して上手にできるようになった。

朝の取り組み・雑巾がけを朝と昼寝起きに毎日取り組むことができた。

＜遊び＞

散　　歩・季節を感じながら遠出散歩を楽しんだ。しっかりと歩くことで体力もついていった。前半はもっと遊びたく次への行動に気持ちが切り替われない子がいたが、周りを見ながら散歩を楽しめるようになった。自然物にも目がゆき、後半は仲間と協力しながら採ったりする姿が増えた。

集団遊び・日に日に子ども達で行うようになり盛り上がれるようになった。もっともっと遊びたいと一つの遊びに夢中になって遊んでいた。

絵　　・色々な体験を通して、経験したことやお話の絵を表現するようになった。描くことを認めていくことで自信をつけ表現するのが楽しくなっているのを感じた。

リズム　・年長リズムをすることで一人一人の素敵な姿が輝き、その姿を認め合う仲間へと変わっていった。

課　　題・課題への取り組みを楽しみにしつつ、実際やってみると大変で思うように進みにくい子もいた。目標を決めることで気持ちを高めて頑張ることができた。後半は、意欲的に取り組み最後までやり遂げようと集中して取り組めるようになった。

仲　　間・共に生活し、一つ一つの行事や課題を取り組む中で、友だちのことを大事にする姿が増えた。なかなか友だちに意見が言いにくい姿があったが最後何でも言い合える集団へと育った。

＜反省＞

・年長になったことを喜び、日課となる雑巾がけや当番を張り切って取り組む姿はあったが、集まる時になかなか集まれない、話が聞けない等の姿があった。体作りを大事に生活するようにしてきた。毎日の雑巾がけやリズム、遠出散歩、畑の野菜の水やりに行くなどを繰り返すことで子ども達も体力がついてきた。

・一つ一つの課題や行事を通してみんなで力を合わせて活動していく中で、友だちの素敵な姿や頑張りに気づき認め合うようになった。子ども達が協力しながら主体的に生活を進め、何でも言い合えるようになった。集団が育つことでみんなが意欲的に活動に取り組むことができた。

・卒園式前にインフルエンザが流行り、卒園式を４月１日に延期した。最後の一週間はやりたい事が沢山あったが、毎日楽しく活動しながら心と体が大きく成長しているのを感じた。最後まで子どもを信じていけば変わっていくことを実感するとともに、子どものもっている力の素晴らしさを感じた一年であった。

２０２２年度年間総括【たんぽぽ組】～一時保育～

保育目標	・生活や遊びのなかで友だちとの関わりが持てるようになる。 ・生活に必要な身の回りのことを自分でしようとする。 ・自分の要求や思いを言葉やしぐさで表現できる。

＜生活＞

・食事：・野菜が食べにくい子、好きなものしか食べようとしない子が多くいたが、個々に合わせて量を調節したり、小規模保育園の子たちと一緒に食事をし、楽しい雰囲気の中で食事をしたりすることで、食べる意欲に繋がっていった。

・咀嚼力が弱い子に対し、給食の職員と相談し、給食の時に煮野菜をつけてもらうことにより、少しずつ改善していった。

・睡眠：・寝付くのに時間がかかる子、すぐに目が覚めてしまう子がいたが、続けて通ったり、遊びを充実させていったりすることで、一定時間眠れるようになる。

・着脱：・洋服に対するこだわりの強い子が多く、着脱をしようとしない姿が見られた。

・月齢の小さい子や自ら着脱をしようとしない子に対しては、一つ一つ丁寧に一緒にやっていくことで、自分で着脱をするようになる。

・排泄：・周りの子を見て、トイレに行く姿がみられた。

・月齢の小さい子は、仕草や言葉で伝えられるようになった。

・清潔：・食事の前や、手が汚れた時に自分で手を洗いに行く姿があった。

＜あそび＞

・泥んこ遊びに抵抗なく遊ぶ姿があった。裸足になることができない子が多かった。
園庭にでると、自分の好きな道具を取り、遊ぶ姿がみられた。

・子どもたち同士で、ままごと遊び等を楽しむ姿がみられた。

・散歩は、月齢差や人数の関係で近場にしか行くことができなかったが、起伏のある道や階段のある道を歩いたり、月齢の小さい子も自分の足で歩いたりし、さまざまな道をしっかり歩けるようになる。

・室内遊びでは、一人ひとりの発達に合わせたアスレチックを作り、身体をしっかり動かすことができた。

＜リズム＞

・小規模保育園の子たちと一緒にリズムを行ってきた。それによって、模倣をしたり、勢いよく身体を動かしたりすることができた。

・月齢の小さい子も周りの子を模倣し、楽しんで身体を動かしていた。

・全体的に歌もよく覚え、大きな声で歌っていた。

＜保護者支援＞

・送迎時や、お便りやノート等で、日々の子どもの様子を丁寧に伝えていくようにした。

・さまざまな悩みを抱えておられる保護者が多かったため、一人ひとりに寄り添いながら、丁寧に話を聴いていくようにした。

・今年度は、懇談会、個人面談を行うことができなかった。

＜評価・反省＞

月齢が低年齢化し、子どもたちの年齢の幅もあった為、年齢に応じた遊び、活動の保障が難しかったが、小規模保育園の子たちと一緒に活動することで遊びや活動の幅を広げていくことができた。

２０２２年度年間総括【児童クラブ】

指導目標

・　クラスの仲間と交流を深め協力し合って生活や遊びをする
・　小さい子とのふれあいを大切にし、自分から進んで関わりをもち、思いやりの気持ちを育てる
・　友だちの良いところを見つけ、困ったことなど話し合い、学童の生活をみんなで創っていく。
・　友だちや大人の話をよく聞き考えて行動する。

生活

・今年度、11 名の新入児を迎え、６６名の児童数となった。こばと保育園から９名、他園から２名となる。昨年から長期休みには活動自体を学年別でしたり、様々な形態を試みた。また低学年、高学年用と年齢に沿った保育の取り組みを行った。その工夫もあって子ども達も伸び伸びと生活することができた。

遊び

・カプラ、一輪車、鬼ごっこ、ボードゲーム、独楽、プラバン制作、折り紙など様々な遊びを日々楽しんでいた。遊びの中でジクソーパズルを取り入れていった。この遊びの中で様々な学年の子供達が一緒に向き合い、輪になって遊ぶ中でたくさんのコミニュケーションが生まれて仲良くなれたことはとても良かった。５００ピースを 2 作品。1000 ピースのものは年度を超えて現在取り組んでいる。

・例年伝承遊びのひとつとして剣玉を学童全体の遊びとして取り組んできた。今年も一年を通して楽しく取り組んできた。秋には古志原公民館まつりに剣玉ダンスで出演。３月には市主催の健康福祉フェスティバルにも出演することができた。

・新型コロナ予防対策のため、夏の大山合宿を中止にした。６年生にとって“残念な年”にならないよう、子ども達の“願い”に耳を傾け一日一日が充実できるように心がけた。今年度も「秋祭り」は５．６年生に任せ、プログラム作りからメンバー分けまで自分達で考えてもらった。子ども達は自覚を持ち責任を持って取り組んでいた。その結果、一人ひとりが大きな達成感を感じることができた。またみんなでひとつの事を作り上げるという共同作業の中で仲間意識も育ち、連帯感も味わうことができた。

・ドッチボールは年間通して夢中になった遊びである。今年度は新しくキャスターボードを取り入れた。保護者と話し合いを持ち、ルールを決めていった。子ども達はすぐに乗れるようになってとても楽しんでいる。

・卒所式

６年生に送る歌では「世界で一つだけの花」という曲を歌った。サビの部分は手話を覚え披露することができた。また２年生による劇「オオカミと７匹の小ヤギ」も楽しく演じることができた

・反省と課題

コロナ過で保護者との関係も気薄になっていった。もっとこばと学童に対して理解を深めてもらえるように、クラスだよりや Facebook など情報発信をしてきた。また歌やダンスなどについても QR コードで誰でも観覧できるようにした。懇談会や個人面談も 2 月から行ってきた。保育園と比べ学童は保護者同志の交流も少なく活動も伝わりにくいので、今後も保護者にこばと学童を理解していただけるように働きかけていってほしい。

２０２２年度年間総括【保健】

（感染症対策）

７月～8 月にかけ、新型コロナウイルスの感染拡大とＲＳウイルスの流行があった。

11 月～12 月にかけ、ヒトメタニューモウイルスと思われる発熱を伴う症状が流行。

9 月、3 月には感染性胃腸炎と思われる症状の流行が未満児クラスを中心に増加した。年末年始にかけて再び新型コロナウイルスの感染拡大があった。

3 月に年長児を中心にインフルエンザが流行。卒園式が延期となった。

新型コロナウイルスの対策が緩み、保育園での様々な感染症流行が増えてきている。

新型コロナウイルスは今後、季節性インフルエンザと同等の扱いとなって行くが、感染症に対する考え方を、この間の新型コロナウイルス対策と照らし合わせ、適切な感染症対策を行えるよう職員、保護者への情報提供を迅速に行うことができるようにしていきたい。

（事故報告）

２１件の事故報告があった。口のけが 6 件、肘内障 1 件、熱傷 1 件、はちさされ 1 件打撲、切創１０件、家で０歳クラス女児の排泄物の中にどんぐり発見、園庭に作ったかまくらを崩していて 4 歳児クラス男児が下敷きになる。幸いけがは無し。

園舎、園庭の整備不足による事故が多く見られた。特に園舎内の建具の不具合によるものが目立つ。口のけがに関しては、何も障害物のないところでの転倒や小さいクラスでの段差での受傷、友達とぶつかるなど園舎内での事故が多かった。

事故報告の陰には多くのヒヤリハット事例が潜んでいることを再認識し、事故対策につなげていきたい。

（保健行事）

看護師部会 4 月 13 日（リモート）、６月 30 日宍道公民館、1 月 11 日宍道公民館（出雲市の保健師さんと学習会）参加

内科健診６月 20 日、12 月 5 日　歯科健診 5 月 6 日、6 月 3 日、6 月 10 日、１２月 9 日
１２月 16 日、11 月 21 日

尿検査（3 歳児～5 歳児クラス）5 月 25 日１次、6 月 1 日 2 次、6 月 15 日３次

歯磨き指導（4 歳児クラス）中止、次年度実施予定

新型コロナウイルス感染症対策のため、保健行事にも影響が出た。

（反省、来年度に向けて）

新園舎となり、5 年経過し、施設設備の不具合のため事故、活動面での安全配慮の不足などがある。職員体制の改善や安全に関する意識、知識の向上を目指す必要がある。ヒヤリハット、事故報告の検討を全職員で適切な時期に行うことができるようにしていきたい。

新型コロナウイルスの対応変更に合わせながら、保健活動を行っていきたい。

２０２２年度年間総括【給食室】

◎年間目標について

旬の食材を味付けや切り方、見た目を変えて繰り返し使うことによって、最初は食べられなかった食材も食べられるようになった。また、散歩で採った野草（ふきのとう、のびる、つくしなど）を担任が工夫して調理することによって、食べ物を通して季節を感じる体験ができていた。合宿では給食と違う「特別」を意識したメニューを考案し、子どもたちのワクワクした笑顔を引き出すことができた。

◎献立について

旬の食材を使った季節感のある和食中心の献立を作成することができた。おやつは４番目の食事と捉え、おにぎり・団子・芋などを中心とすることができた。が、時にはお楽しみもあったほうがいいと思い、月に２回程度ケーキ類も取り入れた。また、良い給食を作るだけでなく、保護者に良いメッセージを届けられる献立・おたよりの製作にも努めた。1 月、2 月、3 月で年長ひとりひとりからのリクエストメニューを献立に取り入れることができた。子どもがリクエストメニューを楽しみにしている気持ちを保護者も把握しており、給食に関心をもって頂ける良いきっかけになり今後も続けていきたい。

◎調理について

４月から主の調理員が産休・育休に入ったが、日誌に調理工程・調味料の分量などを細かく記録することで、調理もスムーズに行えた。コロナによる行事の日程の変更や出席者が極端に少ない時があったが、給食の発注を中断したり、メニューの変更をしたりして柔軟に対応することが出来た。天候や災害による食材の値段の高騰があったが、納入業者の方が食材の情報を親切に教えてくださったり、規格外に近いような食材（安価）を納品してくださったりしたので、給食費になるべく影響がでないようにした。合宿のまかない作りでは、保育士も加わり職員みんなで協力して作ることが出来た。２月と３月の合宿では、保護者の方まかない作りを再開した。

◎アレルギーについて

誤食を未然に防ぐために、年間を通して主なアレルゲンである卵・乳製品をほぼ使用しなかった。卵・乳製品未摂取の子にだす離乳食を作る手間も削減できた。アレルギー児がみんなと同じものが食べられる安心感や、アレルギー児をもつ担任が安心して給食を食べさせる気持ちを考慮することができた。3 歳児で、アレルギーではないが、治療の一環として小麦粉を除去してほしいという要望にも対応することができた。

◎離乳食について

子どもが食べている姿を見たり、担任と相談したりすることで、個々の発達に合わせた離乳食を進めていけた。離乳食懇談会を今年度も行えなかったので、普段の給食の写真を保護者に提示した。例年、離乳食懇談会で毎回配っている資料を配れたらよかった。

◎保護者とのかかわり

日々の子どものたちの様子を見て気づいたことや、保護者さんに要求したいことなどを、おたよりに記載した。直接関わる機会が少ないからこそ丁寧に、分かりやすく、無理のない範囲で要求、アドバイスなど心に響く内容を書くように心がけた。給食・おやつのレシピを今年度はほとんど出せなかったので、来年度は定期的に出すようにしたい。

令和４年度　苦情受付(こばと保育園)

番号	受付年月日	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	4月5日	利用者家族母親 (4歳児ばら組)	①年度当初に持ってくるもの(雑巾、ビニール袋)が子どものカバンにいれてあると職員に伝えたが、帰宅後カバンに入ったままだった。 ②迎えの際、マスクを着用していない保護者がいたが、対応していた職員が何も言わなかった。マスク着用をしっかり伝えてほしい。(連絡ノートに記載)	①朝の受け入れの際に伝達事項を聞いた場合は、きちんとクラス担任に伝えるように職員間で話をし、保護者にもその内容を伝えた。 ②保護者に向け、マスク着用のお願いの貼紙をした。またマスク不着用の保護者がいた場合は、その都度声をかけていった。
2	5月26日	利用者家族母親 (4歳児ばら組)	夕方子どもがなかなか帰り支度をせず、職員に声をかけられたが、言い方がきつかったことと、自分の子だけ言われたことで腹立たしい気持ちになった。 (連絡ノートに記載)	職員で集まり、夕方お迎え時の声のかけ方について話し合った。保護者にもお詫びをし、今後声のかけ方にも気を付けていくようにすることを伝えた。
3	6月28日	利用者家族父親 (2歳児こじか組)	登園時に職員が子どもをすぐに受け取ったことで、いつも以上に子どもが泣いた。子どもが落ち着くまで、時間をかけたかったのであまりいい気がしなかった。	登園時の対応について保護者の方にお詫びをした。合わせて、朝の受け取りをする職員は、子どもや保護者の様子を見ながら対応していくように職員間で話をした。
4	9月6日	利用者家族母親 (0歳児りす組)	たて続けに他の子の洗濯物が入っている。布おむつが入っていることもあり、衛生的に気になるので、確認をお願いしたい。 (連絡ノートに記載)	保護者の方にお詫びをし、定期的に汚れ物入れの確認をするようにしていく。また、名前の似ている子がいるため、汚れ物入れを離して置くなどの対応をする。

２０２２年度　苦情受け付け（児童クラブ）

番号	受付年月日 氏名	相談者	苦情 要望内容	指導員と話しあった内容
1	令和４年 ８月８日	５年生 男子 KS の 母 対応　村上	S（5 年生）の児童クラブの行事の参加の仕方について Y 指導員から色々言われて、S が傷ついている 児童クラブの活動の中で、Y 指導員が利用女子に対してひいきしていると子ども達（男児）が感じている	・S 君に対して、言った言葉やどういういきさつから S 君を傷つける言葉を言ったのか事実確認をした ・活動内容について、もっと子ども中心に活動を進めていく方がよいのではないか。児童クラブで、元気に楽しく過ごすことが一番大事ではないのかと話した ・すべての子ども達に、平等に関わるように指導した
2	令和４年 ８月 30 日	３年生 男子 OY 母 対応　蔭山	・プールでの水しぶきが K 指導員にかかり、「今度かけたらプールから出すぞ！」と言われて、緊張しながらプールに入っていたと子どもから話を聞いた ・自分の靴箱ではない所に靴を入れていたら、「自分の所に入れろ」と言って、靴箱から靴をポンと出された ・S（1 年生の男児）が、K指導員の背中にくっつき甘える場面で、荒々しく背中から払いのける姿があった この 3 点の苦情報告があった 子どもに対しての対応を改善して欲しい	・保護者からの苦情を伝えて、事実確認をした。 ・「水をかけらんでくれ」と言い、プールから離れた所から見ていた。3 回かけたが、謝ってきたのでまた少しプールに入らせた。自分自身、多少イラッとしていた ・「自分の靴箱に入れてよ」と言って、靴箱から靴を出したが、激しくは靴を出してはいない ・S 君が 2～3 回くっついてきたので、手と身体をはがして振り払った。口調がきつかったかもしれない ・子どもに注意することは大事だが、言い方や口調には気を付けて対応するよう指導した

3	令和４年 ９月１日	３年生 女子 HS と母 対応　村上	母親と女子Ｓから苦情を聞く ・学童に帰って来たらけん玉を必ずしないといけない。なんでしないといけないか、わからない。強制ではなく、やりたい人だけではいけないのか? やらないと「こばとの学童に来らんでいいよ。」と言われる ・友だちと好きなことをして遊びたい ・「ハートシェイカーを前の日はしていい！」と言われたのに、次の日は、「4～6年しかダメ！」と言われて、意味分からんかった。 ・保護者のとの意見交換の場が欲しい ・指導員からズバッと言われる。指導員の考えを押し付けることがある	・指導員に苦情報告し、事実確認をした ・学校から帰り、先ずはほっとする雰囲気で迎えてほしいことを話した ・遊びも子どもの自主性を大事にしていかないといけないのではないかと話し合った ・コロナ禍の中ではあるが、懇談会を開き、活動や子ども達の様子を伝えていくようにしながら、保護者の声も聞いていこうと決めた
4	令和４年 ９月15日	３年生 男子 TY 母 対応　村上	・児童クラブの懇談会で、「児童クラブで嫌なことがあった」とわが子から聞くことがあると話をされた ・懇談会後、今まで色々あったけど改善されたように感じない。高学年の男子に対しての暴言があったことも聞いている。このような状況で、保育園としてどのような処分を考えておられるのかと言われた	・指導員と話したことや指導したことを伝えるようにしていたが、指導員との信頼関係が出来ていないと感じた 苦情処理第3者委員会を開いて話を聞いてもらった

指導員に対する苦情が多かった。苦情を伝え事実確認を行いながら話し合い、今後の対応を決めていった。保護者には謝罪とともに、話し合った内容や改善点を報告した。指導員は改善に努める姿は感じられたが、保護者との信頼関係が希薄になってしまっている中、十分な対応にならなかったと反省している。

2023 年度からは、指導員の体制を新たにして、子ども達のことを一番に考えながら、心身共に健やかに育つ児童クラブにしていきたい。

放課後等デイサービスぽっぽ

令和４年度事業報告

２０２２年度　放課後等デイサービス　ぽっぽ事業報告

〈放課後等デイサービス　ぽっぽ・おりーぶ、ぽっぽ・ぴーす、ぽっぽ・のあ〉

【　運営について　】

松江市の放課後等デイサービスの需要も高まり、現在市内に 50 か所の事業所が出来ている。利用者が安心して生活を送れるよう体制づくりを行っていくための中核となる機関「障がい者基幹相談センター絆」も設立され、地域との連携も強化されてきた。ぽっぽを利用される方も年々増え、2022 年度は 3 月に 3 業所目を新設し「ぽっぽ・おりーぶ」「ぽっぽ・ぴーす」「ぽっぽ・のあ」と事業所名を改名して一年経過した。

年度当初は新型コロナウイルス感染症の拡大が収まることなく、3 事業所とも休所をするという厳しい運営のスタートとなったが、6 月より徐々に利用日数も増え、3 事業所の平均稼働率が 48%から 70%に上がり、「ぽっぽ・おりーぶ」の 3 月に関してはほぼ 100%の状態となった。

3 事業所の場所をぽっぽ舎の一階と二階そして離れた民家に設置し、それぞれ独立した環境を作ることで各療育も明確となった。利用者たちの個別支援計画に沿った適切な指導を行うことが出来たことは、利用者の担当の相談員さんからも評価を得、9 か所の相談支援事業所と連携を取ることが出来、新規の利用者の紹介にも繋がった。保護者や相談員さんたちとの信頼関係を作ることで、兄弟の利用や新規の利用者が増える中、新設「ぽっぽ・のあ」の利用者の増員を考えて、利用者の支援状況を見ながら事業所間の移籍を行うなどの配慮も行った。次年度は 3 事業所ともに定員を満たしてのスタートに至った。

保護者との信頼関係作りとして、「ランチ＆おしゃべり会」を開催した。平日の昼の開催だったので参加人数は少なかったが、忌憚なくおしゃべりすることで保護者同士の悩み等を打ち明けるなど好評であった。また年間行事に感染対策を行うなどの配慮を要したが、夏祭りに保護者にも参加してもらい日頃の利用者の様子を見てもらうことが出来た。

【　経営面について　】

前年度末が収入減で終わり、4 月は休所の影響で各事業所の稼働率約 48%でのスタートとなったこと、さらに職員不足から「児童指導員等加配加算」を付けることが出来なかったことも収入減に繋がり、経営的に厳しい年となった。事業所の新設をした年は経営面でも大変な年になると覚悟をしていたが、徐々に利用日数が増えるものの収入増には繋がらなかったので経営改善計画書を作成し、収入が増えない所は支出をいかに抑えていくかを考え、職員全体で話し合い支出減に取り組んでいった。10 月からは 2 事業所に「児童指導員等加配加算」を取得することが出来収入の回復は見られてきたが、法人本部からの借り入れで賞与の支払いを行うという状況だったので、次年度は借入金返済を考慮した経営をしていかなければならない。

令和４年度　児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービスぽっぽ・おりーぶ
児童発達支援管理責任者　坂本香織

□年間目標

・活動の中で人と関わる楽しさを味わう。 ・様々な活動・体験を通して、満足感や達成感を味わい、興味を広げたり自信をもったりすることができる。 ・生活や遊びの中でのマナーやルールがあることを意識しながら過ごすことができる。

□本年度の自己評価

児童発達支援管理責任者の役割について	・相談員や学校、サポートノートを活用した医療との連携を積極的に行った。 ・ユニット会議、カンファレンスを定期的に開き、子どもの実態や課題を見極め、職員の意見を組み込んだ個別支援計画を作成した。 ・子どもや保護者との関わり、勤務体制や職場環境などにおいて、職員が悩みを相談しやすい雰囲気づくりに努めた。また特定の職員に負担が偏らないよう、業務の分担を行った。 ・保護者の方が話しやすい、相談しやすい雰囲気やタイミングを作るよう努めた。
活動内容 療育内容について	・広い支援室、園庭を活用し、1 年を通して体をしっかり動かす活動を取り入れた。 ・季節の行事やイベン等を取り入れ、子どもも職員も意欲的に活動できるよう工夫した。 ・利用児の実態やその日の状態により活動内容の設定を臨機応変に設定した。 ・長期休みには海水浴や川遊び、公共の乗り物の利用や買い物など、家庭ではなかなかできない活動を実施した。 ・カンファレンスや日々のうち合わせで子どもの実態や課題を話し合い、職員間で共通認識をもって療育に入れるようした。 ・高すぎる目標の設定や過剰の支援にならないよう子どもの実態の把握や自主性を大切にした。
安全管理について	・活動の中の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員全体で危機意識をもてるようにした。 ・施設・設備等の点検を定期的に行い、利用者が過ごす環境の安全管理に努めた。 ・定期的に避難訓練を行い、職員、利用者の防災意識を高めていった。

□総合評価

・年間目標、各個別支援計画に基づいて活動・療育を行うことができた。 ・利用者ひとりひとりの状況や発達段階に応じた療育を行っている。適宜保護者の思いや困り感、ニーズについて把握し、所内相談を行ったり関係機関と連携して専門的にサポートできるよう努力した。 ・保護者ランチ会を開催。保護者通しのつながりを広げ、気軽に悩みを相談できたり、子育てについての有益な情報を共有したりするいい場となった。保護者からも「とてもよかった」「またぜひこのような機会が欲しい」との感想をもらった。

□保護者アンケート結果

・活動や療育の内容については、全般的に理解を得られている。 ・療育環境についても、概ね好意的な評価をいただいている。 ・バリアフリー環境に関しては、マイナスなご意見が多かった（建物の構造上難しいが）。

□今後の課題

・松江市障がい者基幹相談支援センター、相談員、学校、医療関係からも信頼を得て、利用児が年間を通して順調に増え、来年度春からは定員いっぱいのスタートである。空きを待つ方もある。利用調節、療育パート職員の人員確保に努め、利用を希望される方の期待に応えていきたい。 ・利用人数が増え、活動環境を調整が必要。児童の実態に応じて構造化を図り、どの子も伸び伸びと過ごせるようにしていきたい。

令和４年度　児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービスぽっぽ・ぴーす
児童発達支援管理責任者　別所真祐子

□年間目標

・大好きな友だちやスタッフと一緒に色々な遊びを楽しむ中で、好きな遊びの幅が広がる。 ・色々な経験・体験を通して、気持ちを受け止めてもらったり、達成感を味わったりする中で「自信」となり、色々なことに挑戦しようとする力がつく。 ・遊びや活動を通して、太陽・水・土など自然と触れ合い、心身の発達を促していく。

□本年度の自己評価

児童発達支援管理責任者の役割について	・医療や学校との連携を積極的に行った。医療とは、Dr.発信のサポートノートを通じて利用児童の普段の姿を共有した。学校や医療機関によるが、利用する一人ひとりのために、医療・教育・福祉の繋がった支援ができたと思う。 ・相談員とは長い付き合いになってきており、ご家庭の状況や本児の様子など、密に相談し合える関係になってきているように感じる。 ・職員間でも積極的にコミュニケーションをとり、話しやすく相談しやすい関係作りに努めた。利用児との関わりの中で、悩んだ時に職員間でケース会議を開いたり、定期的な利用児のカンファレンスを行なったりすることで、利用児にとっても、職員にとっても良い方向で支援していけたように思う
活動内容 療育内容について	・天気の良い日には、庭や公園でしっかり身体を動かして遊ぶことができた。 疲れ具合によっては、砂や水に触れるなどして癒されている姿も見られた。ぽっぽの環境ならではのことだと感じた。子どものその日の心の状態を考慮し、関わりかけたり、時には過剰な刺激を与えないようにしたりと、職員間で連携し、子どもが気持ちよく、安心できる居場所となるように心がけた。 ・知的学級の子が多く、成長するにあたり、人より「できない」と感じている子

	が多い。普段から何気ない生活の中でも「仲良くできたね」「楽しいね」「できたね！」と子ども一人ひとりを認める声かけを心掛けた。そうすると、友だち同士で褒め合う素敵な姿も見られるようになってきている。 ・週５で安定的に利用する子どもが多く「ぽっぽ・ぴーす」となって１年、子ども同士でも、大人に対しても仲間意識が育ってきた。褒め合ったり、助け合ったり、頼り合ったりする姿が見られるようになった。
安全管理について	・活動の中や個人情報管理の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員会で共有。施設・設備等の点検は、チェックリストを作成し、活用していきたい。

□総合評価

保護者や相談員、学校の先生と連携し、子どもたちの応援団として機能できたのではないかと思う。
子どもたちも、学校に行き渋っていても「学校を頑張れば、放課後はぽっぽに行ける」とぽっぽ・ぴーすを励みにしてくれていた。それは安心する居場所があるだけでなく、会いたい友だちやスタッフがいるからだということを保護者の方から聞いている。今後もそういった声が聞こえるよう、療育にあたってきたい。

□保護者アンケート結果

毎日楽しみに通っている、ぽっぽに行くために学校を頑張っているなど、概ね良い評価をいただいている。

□今後の課題

人員不足。新年度は、管理者の枚村を含めた人数で届け出ているため、実際の現場は児発管＋常勤２名＋3/wパート１名でのスタートとなる。児発管は、支援会議に出かける・保護者との面談・相談員対応などで、実際に現場で動けないことが多い。利用児童の中には、パニック状態になると脱走をしたり、暴力が止まらなくなったりする子もいるため、そういったことにも対応できるパート職員が必要。
ぽっぽ・ぴーすは、利用児もスタッフも大きく変わりのないメンバーでスタート。療育に対してマンネリ化しないよう、研修や会議の進め方にも一工夫していきたい。新卒スタッフもいるため、今までいたスタッフも初心に返って、療育への意識を高めていきたい。

令和４年度　児童発達支援管理責任者自己評価・総括

放課後等デイサービスぽっぽ・のあ
児童発達支援管理責任者　枚村明子

□年間目標

・活動の中で人と関わる楽しさや受け入れられている安心感を味わい、社会で生きていくために必要な愛着や信頼の感情を育む。
・「豊かに生きる」未来を見通した、生活支援、余暇支援、進路選択支援を行う。
・体験的な活動を通して成功体験や達成感を積み、自己肯定感を養う。

□本年度の自己評価

児童発達支援管理責任者の役割について	・療育内容を他の職員と連携しながら検討し、子どもたちが自主的に生活できるような見通しのもたせ方や活動環境の調整を行った。またひとりひとりの発達課題や保護者のニーズを捉えたうえで、カンファレンスや日々のミーティングの中で職員の意見をくみ取りながら個別支援計画の作成を行った。 ・日々の業務の中で職員の思いや困り感を把握し、利用児の対応のサポートを行なったり、役割分担の配慮を行った。
活動内容 療育内容について	・利用児の実態に合わせた活動内容を検討し教材や活動の設定を行った。また季節感の感じられるイベント等を取り入れ、職員と子どもたちが共に意欲的に取り組めるよう工夫した。 ・長期休業中には、海や山など自然に触れ合う機会を作り、また外食や買い物社会体験活動を多く取り入れて、家庭ではなかなかできない体験を計画して実施した。 ・個別の療育については、適宜カンファレンスを行い、子どもの発達段階や実態について共通理解をし、個別支援計画を基に療育を行った。
安全管理について	・活動の中の危機管理としてヒヤリハット報告書を用いて、職員全体で危機意識をもてるようにした。 ・施設・設備等の点検を定期的に行い、利用者が過ごす環境の安全管理に努めた。 ・定期的に避難訓練を行い、職員、利用者の防災意識を高めていった。

□総合評価

・年間目標、各個別支援計画に基づいて活動・療育を行うことができた。
・利用者ひとりひとりの状況や発達段階に応じた療育を行っている。適宜保護者の思いや困り感、ニーズについて把握し、所内相談を行ったり関係機関と連携して専門的にサポートできるよう努力した。
・保護者ランチ会を開催。保護者通しのつながりを広げ、気軽に悩みを相談できたり、子育てについての有益な情報を共有したりするいい場となった。保護者からも「とてもよかった」「またぜひこのような機会が欲しい」との感想をもらった。

□保護者アンケート結果

・活動や療育の内容については、全般的に理解を得られている。
・療育環境についても、概ね好意的な評価をいただいている。
・バリアフリー環境に関しては、マイナスなご意見が多かった（建物の構造上難しいが）。

□今後の課題

・松江市障がい者基幹相談支援センター、相談員、学校、医療関係からも信頼を得て、利用児が年間を通して順調に増え、来年度春からは定員いっぱいのスタートである。空きを待つ方もある。利用調節、療育パート職員の人員確保に努め、利用を希望される方の期待に応えていきたい。
・利用人数が増え、活動環境を調整が必要。児童の実態に応じて構造化を図り、どの子も伸び伸びと過ごせるようにしていきたい。

2．保護者支援

利用者さんだけでなく保護者自身の悩みや問題を抱えている方たちも多くなり、お迎えの時には出来るだけ利用者さんの様子を直接お話しする中で、保護者さんの話を聞いてあげる時間を持つようにした。悩みを抱えておられる方には午前中など別に時間を取って対応し、落ち着いた環境でお話が出来るよう対応していった。

今年度は 12 月に懇親会「ランチ＆おしゃべり会」を開催し、職員と保護者が忌憚なくお話できる場を設け好評であった。次回も楽しみにしていると言う感想を頂いている。

3．職員体制

それぞれ仕事の分担を責任もって行い、事務分掌表の中で仕事の明確化をしていった。3 事業所になり利用者も増えてきたので、事業所ごとに利用者のカンファレンス会を行い、全体での職員会で報告し合うようにした。午後からの半日パートの職員には文章の回覧で共通の認識が持てるようにしていった。職員間の悩み等を気軽に相談できる雰囲気作りをしたり、スキルアップのための研修もコロナ禍ではあったが、リモート研修を取り入れたりして資格習得等のための研修に出来るだけ参加していった。

4．関係機関・団体や保護者との連携

① 相談支援事業者との連携

・相談員さんへ利用者の様子を月に一回報告すると共に、モニタリングを通じて連携を取ることが出来た。今年度は「松江市障がい者基幹相談支援センター」が設置され情報の共有も出来、新しい相談員さんも増え、新規利用者の紹介へと繋がった。

② 学校との連携

・相談員さんとの連携とも関わってくるが、支援会議を開催し利用者さんの共通認識を持つことが出来た。各学校の担任に利用者の利用日を記入した用紙を渡し、「ぽっぽ・おりーぶ」、「ぽっぽ・ぴーす」、「ぽっぽ・のあ」の利用日を明確化していった。

③ 医療機関や専門機関との連携

・利用者の状況によって医療機関との連携も必要となり、保護者や学校の担任と共に直接担当医と話しをする時間を持つことが出来た。医師の提案でサポートブックを作り、医療・学校・ぽっぽの連絡ノートとして利用時の様子を把握することが出来た。

④ 保育所・児童発達支援事業所等との連携

・移行支援会議を通じて、他機関との支援会議の資料や相談員さんと繋がる事ができ、保護者さんから利用前に事前に様子を聞くことも出来た。

⑤ 他の放課後等デイサービス事業所等との連携

・コロナの影響で他機関との合同の活動は出来なかったが、連絡を取り合って利用者さんのことだけで無くお互いに知っている知識を共有することが出来た。

⑥ 放課後児童クラブや自治会等との連携

・ぽっぽ・のあを住宅街の中に設置することで地域の総会に参加したり、「ぽっぽ通信」を回覧してもらったりし、放課後等デイサービスぽっぽへの理解に深めていった。

・旧園舎の庭で古志原小学校の児童やこばと小規模保育園の園児たちと交流するなどの機会を持つことが出来た。

・近くに散歩に出たり、畑での活動をしたりする中で地域の方たちと少しずつ関りを持つようにしていった。

⑦ 地域自立支援協議会等への参加

・コロナ感染症の為、交流等は出来なかったが、島根県社会福祉士会の障がい者虐待防止研修に職員全員がリモート参加等出来た。

⑧ 保護者との連携

・学校への出欠や行事の連絡が確実に行われるよう連絡体制についてラインを開設し、保護者の方とのやり取りをしていった。

・毎月１回以上の「ぽっぽだより」等の発行や利用者の活動写真を廊下に展示したり、各家庭にデーターで定期的に渡したりしてぽっぽでの様子を伝えていった。（写真掲載など個人情報に注意をして行う）

5． 情報提供、公表、相談、苦情解決

・各種の相談は、話しやすいようにこちらの方からコミュニケーション取るなどの対応をしていった。

・個人情報を提供する際には本人の同意をとるなどの注意喚起を徹底した。

・ガイドラインに基づく保護者評価・事業所評価をお便りやホームページに掲載。

・障がい福祉サービス等情報システムにて公表。

6． 緊急時対応、非常災害・防犯対策

・利用者各自の細かな緊急連絡表を作成した。

・消防計画を周知するとともに年２回（火災・地震）の避難訓練をこばと小規模保育園と合同で行い消防署に報告をした。

7． 虐待防止・身体拘束の取組

・虐待防止に関しては義務化となり「虐待防止委員会」を設置し、各事業所児発管を中心に防止に努めていった。今後も職員間の連携を図っていく。

・年４回の研修を計画し、常勤職員は全員研修を受ける。

・身体拘束についても「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、身体拘束をしない療育の実施に努めた。

8． 衛生・健康管理

・新型コロナ感染症で４月には閉所をするという事態になった。新型コロナ感染症対策も含め、検温、マスクの着用、アルコール消毒等に注意を払うと共に、食事の前やクッキング時などの手洗いは必ず確認していった。

・学校や家庭との連絡を密にとり健康管理に注意を払った。

9．安全確保

・サービス提供中に起きる事故や怪我を防止するために、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検し、鍵の二重ロックなど危険を排除するように努めていった。障がいの特性から高い所に登る利用者が多いので特に注意を払って見るようにしていった。

・送迎時に窓を開け、物を落としたりドアを開けようとしたりするなどの予想つかない危険行為に、チャイルドロックをするなどの注意をし、事故が起こらないよう安全運転に努力した。

・送迎を待たずに勝手に帰ろうとする利用者がいたので、学校との連絡を密にしていった。
・送迎バスに児童が置き去りにされた事件が発生し、送迎時の利用者の来所チェック等を確認し、学校に利用者がいない場合は保護者に連絡を入れて再確認を強化していった。2023 年度 4 月 1 日より、安全装置の装備が義務化（1 年間の経過措置あり）されたので「公用車乗り降りの際に点呼する」「公用車（3 列シートのもの）に安全装置を設置する」ことを検討していかなければならない。
・乳製品除去や摂取量の確認をする利用者がいるので、食べ物の成分表には気を付けて見るようにし、保護者へ確認するなどの対応もしていった。
・職員会でヒヤリハット・事故報告等の時間を持ち、全員で同じ認識を持ち対応していけるようにした。
・利用者のいる部屋には必ず職員がいるようにして、利用者のトラブルが起きた時の対応が出来るようにしていった。常に利用者さんの所在を目視するようにしていく。

2022 年度　ヒヤリハット・気づき報告

月・日	時間	内　　容	原　　因・対　　策
4 月 19 日	15：00	利用児を学校へ迎えに行くと、昇降口に担任とおらず道路の方へ一人歩いて出ようとしていた。	新しい担任になり直接引き渡しをお願いしたにも拘わらず、担任の理解が得られず。学校へ再度連絡を取り、教頭先生から再度担任へ指導してもらう。家庭より本人にも必ず誰かと一緒に迎えを待っていることを話してもらう
4 月 26 日	16：20	利用児古志原小学校の先生より電話有。利用児「〇さんのぽっぽ連絡袋が駐車場に落ちていた」とのこと。翌日学校で貰う。お金の入った集金袋も入っていた。	連絡袋を利用児のランドセルのかぶせの内側に挟んでいたので、落ちたとみられる。袋はきちんとランドセルの中にしまうこと。乗車時に送迎車の周りを目視確認するようにする。
5 月　9 日	15：15	利用児を学校へ迎えに行くが、集団下校で帰っていた。母に連絡を取ると、利用するつもりだったので家には不在。担任と母が無事自宅まで帰っていた利用児と落ち合うことができた。	確認すると学校と保護者の方と連絡の行き違いだった。今後、学校と保護者の方で気を付けてやり取りをしていくこととなった。学校側の危機管理不足。心配なことが出てくれば、児発管に相談する。
5 月 24 日	17：00	利用児がハサミを使っている時に、誤って指先を切ってしまった。近くにいたスタッフが、流水で洗い流し絆創膏を貼って処置をする。	大人に頼らず何でも自分でやってみようとする気持ちは大切だが、手先の不器用さから怪我に繋がるので注意深く見守っていく。特にカッターを使うときは慎重に扱う。
6 月 16 日	17：00	利用児が道端に生えていた葉を口に入れる。すぐに吐かせたが、飲み込んだ可能性あり。15 分後に喉に引っかかっている違和感を訴える。　病院に連絡を取る。	本児は草・葉などを口に入れる可能性があるということを想定して対応しなければならない。必ず一人は付いているが、他の外にいるスタッフも常に気にし

			て離れた場所からも本児の行動を確認するようにする。
7月　　日	15：50	学校へ送迎に向かう途中で利用児を発見する。利用児を車に乗せ学校へ向かう。担任は昇降口で待機していた。一人で帰ろうとしていたことを伝えると「無事で良かった」とのこと。担任がトイレへ行っている間に勝手に帰ろうとしていた。	4 月 19 日にも同じことがあり、勝手に帰らないことを本児とは約束している。10 分早目に迎えに行っていたので発見することが出来たが、定刻の時間だったらどこまで行っていたか分からないので、再度保護者の方も交えて「一人で帰らない」ことを約束させる。
7 月 19 日	15：30	利用児が一人相談室に入り、セコムの不審者ボタンを押してしまう。子ども達を集めて「絶対に子どもがボタンを押さない」ことを話をして指導する。	昼のスタッフ体制が手薄の時間帯に発生した。職員の休み等手薄な日もあるが、、子どもの状況を見て采配しなければならかった。利用児から目を離さない様にする
7 月 28 日	16：15	利用児が支援室の窓ガラスにとまっていた虫をたたいてつぶそうとした際に、窓ガラスが割れてしまう。割れるほどの強さではなかったので、本児もビックリする。幸い怪我は無かった。	他の子より力の強い子なので、力加減で割れたのか、傷等が有り割れる状態であったか分からないが、窓ガラスを叩く際は気を付けてみておく。大人が虫を取るようにする。窓ガラスの応急措置をしてガラスの入れ替えを手配する。
8 月 16 日	11：00	利用児が、他児の薬を飲んだ可能性有。（本人は認めず）	他児の昼食後の薬を忘れないようにホワイトボードに貼っていた。高い所とは言え登れば取れる所だった。 保護者に連絡しそのまま様子を見ることになる。本児には、間違った薬を飲むことの危険性を伝え指導する。 薬はファイル等、他児の目の届かない所に保管する。飲み忘れが無い様に「薬有」の表示だけをする。薬担当を中心に服薬確認をする。
8 月 19 日	15:00	利用児がアイロンビーズをしていた。部屋から出たのを確認し様子を見に行くと、ちいぽっぽさんの部屋の前にいた。その際にちいぽっぽの「〇児の口の中にアイロンビーズが入っていたよ」と言うので担任に伝え確認してもらう。	職員が近くにいたのにも関わらず、目を離したすきに起こった。 今後は、移動の際には確認を徹底した上で本児にも「小さい子にはアイロンビーズをあげない」ことを指導する。

R5 年 2 月　2 日	16:20	利用児が仕切りのパーテーションにすがった際に、麻ひもで吊り下げていたホワイトボードが落下。近くにいた他児がいたが当たることはなかった。	麻ひもの劣化と支えていた物も無し。 もっと頑丈な紐で吊り下げて、定期的に（劣化）の点検をし、確認する。
2 月 15 日	15：50	14：45 頃利用児の父より「参観日なので一緒に帰ります」の電話連絡有。 送迎スタッフに利用児がお休みであることを口頭で伝える。もう一人の利用児も直前にお休みの連絡が入り、送迎スタッフが利用児を間違えて連れて帰る。 父より利用児がぽっぽにいるか確認の電話が入る。利用児を学校まで連れて行き、父に引き渡す。	送迎スタッフが利用児の勘違いをしていた。直前の保護者からの連絡だったので、送迎スタッフにきちんと伝わらなかった。 今後は、保護者からのお休みの連絡は早めに伝えてもらうことをお便りに出す。 利用児のお休みの変更を口頭だけでなく、送迎ボードの写真でも伝えていく。
3 月　4 日	10：30	緑山公園へ遊びに行った際に、利用児のスカートがブランコの座板と吊り具の隙間に挟まり転倒した。スピーを緩めていた時だったので怪我には繋がらなかった。	本児はスカートが好きなので、常にスカートを着用している。公園での遊びには不向きなので、外出など出かける際には、ズボンなどの動きやすい服装にする。
3 月　8 日	17：00	おやつの前にお迎えが来て、持ち帰り用のおやつを渡す。 その後、おやつの賞味期限が切れていたことに気づく。 まだ食べておられなかったので、処分してもらう。	おやつ担当が、おやつ BOX に入れているお菓子の賞味期限を把握して無かった。 渡す際にもチェックしていなかった。 おやつの賞味期限のチェック表を作成する。お菓子購入時に記入し、月に 1 度チェックをする。 持ち帰り袋にも賞味期限を表記する。

2022 年度苦情受付

番号	受付 年月日	相談者	苦情 要望内容	解決状況
1	R 4 年 5 月 24 日	利用者 家族	利用児がハサミで指を切った際に、近くのスタッフが指をなめて止血しようとした。と利用児から保護者が聞く。咄嗟の判断で出てしまった行動ではあるが、新型コロナ感染症の時期でもあるのでどうかと思う。	5 月 25 日 お迎えの時間に衛生的に良くない事であり今後気を付けると謝罪をする。 保護者も良かれと思ってしたことなのでと納得される。

こばと小規模保育園

令和４年度事業報告

2022年度 こばと小規模保育園事業報告

＜保育園をめぐる情勢＞

2020年から世界では、コロナウイルスによる様々な影響を受けている。
変異株が次々と現れ、日々私たちを脅かしている状況である。
2023年5月8日以降第5種類扱いになる事からも感染症に係る保育所の減免措置が令和4年度をもって廃止されることになった。又、園の新型コロナウイルス感染症対策は新たな行動制限を行わず、感染拡大防止対策と社会経済活動の両立を図ることを基本的な考え方とし、保育所等については原則開所することとなった。
新型コロナウイルス感染症を予防する為に、手洗い等により手指を清潔に保ち、一般的な感染症対策や健康管理を心がける。季節を問わずこまめに換気を行い、施設全体の換気能力を高め、効果的に換気を行う事を引き続き行っていく必要性がある。

0歳児1名入園、全体で14名のスタートとなった。コロナの影響も受け出生率が急速に減少しており、近年の少子化の影響が徐々に表出してきている状況と思われる。
今後は今まで以上に選ばれる保育園としてPRしていることが求められる。
職員の配置基準の改善において国の基準が定められたのは、1、2歳児が56年前、4、5歳児は1948年の基準制定以降70年以上一度も改善されておらず、国際的にも低水準のまま放置されている。1、2歳児6対1、3歳児は20対1、4歳児以上は30対1の現行の配置基準では安全、安心で質の高い保育を保障することができない。子どもたちの成長、発達の面からも保育士が安心して保育ができるゆとりのある保育基準をつくる必要性があると言える。

＜こばと小規模保育園としての振り返り＞

・4月職員に陽性者が出、全職員、園児PCR検査をし、5日間の休園となった。
又12月には、保育士の家族が感染、本人も濃厚接触者から感染となり、続けて保育士が欠勤する状況が続き（合わせて職員 1 名が事故の為休職となる）無理のないところで早目のお迎え、家庭保育の協力をお願いした。
年末には 2 日おきに職員が次々と感染し、保育士不足となり保育士確保も出来ず、保育を継続する状況が難しくなり、市、行政とも相談した上で12月27日、28日の2日間休園とした。
・防犯対策として新たに110番非常通報装置を設置し、防犯対策を強化していった。
・テラスの腐食している部分、フェンスの亀裂を補助金で直すことができ、子どもたちも新しくなったテラスで気持ちよく過ごしている。
・玄関対応での送迎が続いていたが、10月から朝のみ部屋に入ってもらうようにした。
保護者に子どもの様子をノートや口頭で丁寧に伝えるよう心がけ信頼関係を深めるように心がけていった。又、子どもにとって大事な事等をおたよりでも伝えるようにした。
・小規模で役員さんになってもらい、行事についてや進め方など保護者さんの意見も聞きながら進めていく事が出来た。
・全体としての懇談会をもつ事が殆んど出来ず、保護者同士の横のつながりを深める事が出来なかった。今後の課題としていきたい。

2022年度事業報告

こばと小規模保育園

月	園内行事	保護者会行事	その他
4	入園のつどい		
5		奉仕作業	就職合同相談会
6			歯科検診・内科検診 救急蘇生講習
7			
8	七夕会		レクリエーション
9		除草作業	指導訪問
10	小規模・たんぽぽ組親子運動会		
11		秋まつり	歯科検診・内科検診
12	クリスマス会		
2	節分	研修会	松江市指導監査
3	修了式		

※小規模役員会を開き行事について相談をしたり、一緒に進めていく
※避難訓練・消火訓練　毎月1回
※誕生会、お弁当の日、身体測定　月1回

年間総括【ひよこ組】～0歳児～

《年間目標》
◎眠る、食べる、遊ぶのリズムが安定し機嫌よく生活する
◎保育士との信頼関係を大切にし、情緒の安定を図りながら意欲的に生活する

《生活》
食事・・・ミルクや離乳食（中期食、後期食）から始まり、1月には1人を除いて他の子は完了食になる。味もわかるようになり、皿を押したりスプーンを叩いたりして遊んでしまう子もいるが、全体的に自分の手でつかんでよく食べている子が多く、おかわりもしていた。
睡眠・・・なかなか寝つきが良くない子や抱っこじゃないと眠れない子もいたり、熟睡出来ずにすぐ目が覚める子もいたりしたが、後半は一定時間よく眠れるようになった。
排泄・・・尿が出る感覚がわかるようになり、股を押さえ「しっし」といって知らせてくる姿も見られるようになった。便もパンツの中でだが、しゃがんだりお尻を上げたりして便を出し、出る感覚がわかるようになる。
着脱・・・自分でパンツを履こうとする姿が見られた。介助するのを嫌がる子もいて、少し介助すると履けるようになり、履けたときは喜んでいた。
清潔・・・手を洗いに行き、自分で石鹸の泡を付けて手を洗えるようになった。洗うとペーパータオルを自分で取ってゴミ箱に捨てに行くようになる。
健康・・・咳、鼻水、咳、クループ、発熱、新型コロナウイルス、喘息などで休んだり入院したりしている子が多かった。
保育中に腕が抜けてしまう事故があった。
安全・・・シャワー時に戸の鍵で指を切ってしまうことがあった。

《あそび》
散歩・・・天気の良い日は三角公園、運動公園、古志原公園、メロン公園、新園舎、近所などあちこちに散歩に出掛けた。歩行が出来る子は、歩いて散歩に行くようにした。散歩先でどんぐりや葉っぱなど季節の物を拾って楽しんだ。
園庭・・・外に出る事が好きで、園庭でよく遊べた。しゃもじやお玉を持って保育士の真似をして鍋に砂を入れたり、砂ケーキを作るとそれを触って壊したりして楽しんでいた。築山から保育士が呼ぶと、自分で登ってきていた。水が大好きで水道の所で蛇口を自分でひねって触ったり、汲んだりして水遊びもしていた。
プール・・水を嫌がる子もいたが、後半は中に入って遊べるようになった。
仲間・・・友だちとの関わりも出てきて、お互いの真似をして楽しんでいる姿があった。
小さい子の側に行って触ったりして気になる姿が見られることもあった。
絵本・・・絵本はみんな大好きでよく見ている。絵本や手遊びの真似をして楽しんで見ていた。

《認識》
理解・・・保育士が言った内容が分かり、行動に移せることが出来る。絵本や手遊びの真似をしたり、指差しをしたりする。
表現・・・「ワンワン」「ちっち」や「しっこでた」など2語文が出る子がいる。
「やだ」など自分の気持ちを伝えることが出来る。
リズム・・保育士や大きい子の模倣をして、リズムをしようとする。メダカやトンボなど手を伸ばしてやったり、あひるのリズムではしゃがんで前へ出たりする。金魚やどんぐりのリズムをすると嫌がって泣く子もいる。

《保護者支援》
保護者との信頼関係を大事にし、安心して預けてもらえるよう園での様子を連絡ノートや送迎時に伝えるようにした。
体調が悪い場合は、すぐに保護者に連絡をし、迎えに来てもらい病院に行ってもらうようにした。

《評価・反省》
自分で出来ることは自分でさせるようにし、お片付けなど声をかけてさせるようにした。
達成感、満足感を味わって意欲につなげるようにした。
ロールやマッサージがあまり出来なかったので、体をほぐして気持ちを落ち着かせたり、ふれあい遊びをしたりして安心して園の生活が出来るようにしていきたい。

年間総括【あひる組】～1歳児～

保育目標：・保育士や友達と一緒に水、砂、土に触れて遊ぶ
　　・自分でしようとする気持ちを大切に育てる

〈生活〉
食事・・・全体的によく食べるクラスでどの児もおかわりをして食べていた。咀嚼が弱く、丸呑みになったり、繊維質のものは食べにくかったりする姿もある。
睡眠・・・特定の保育士を求めたり、気持ちが昂り寝つきにくかったりする姿があったが、少しずつ落ち着いて入眠できるようになっていった。
着脱・・・自分でやりたい気持ちが芽生え、できなくてもやろうとする。靴は左右逆になるが履くことはできる。
排泄・・・排尿、排便の感覚が分かり、トイレへ向かう児もいる。パンツの中で出ると「出た」と言葉で伝えることができる。
〈遊び〉
戸外遊び・・・年度当初は楽しく遊べる児と屋内を好む児がいた。またその場に座ると動き出せないという姿も見られたが、担任との信頼関係もできると一緒に土、砂、水などに触れることを楽しめるようになっていった。汚れに抵抗のあった児も３月には自ら水溜りに入っていく姿も見られるようになった。
散歩・・・月齢の差が広いため、年度当初は散歩車に乗る児と歩いて出掛ける児がいた。秋には全員歩行がしっかりとし、近場の公園だけでなく、運動公園や本園へ行くこともできた。散歩先では自然物を求め、草むらに入っていくこともあった。
絵・・・高月齢児は意味づけもしながら楽しんで描いている。また、丸が閉じる児もいる。低月齢児も楽しんで描いている。友だちと一緒に描く時間を設けたり、他の保育士に絵を見てもらったりし、より表現が楽しくなってきている。
仲間・・・同じクラスの友だちが分かり、生活の中で名前を呼び合う姿が見られる。
〈認識〉簡単な物、色の名前が分かる。保育士の簡単質問に答えることができる。
〈リズム〉友だちや保育士と一緒に心地よく体を動かしている。
〈評価・反省〉他のクラスとの時間、クラスでの時間どちらも活動に応じて持つことができた。やりたい気持ちを大切にしながら関わっていった。
〈保護者支援〉春、冬の２回、面談の時間を設け、児の話しだけでなく、保護者の家庭での様子なども聞いていった。送迎時にも声をかけ、情報を共有していった。

年間総括【つばめ組】～2歳児～

年間目標・・◎一人一人が安心して園生活を送り、自分を出せるようにする。
◎基本的な生活習慣の自立を目指し身の回りのことを自分でしようとする。
◎生活や遊びの中で友達と関わりを持てるようにする。

＜生活＞

食事・・汁が飲みにくい児の姿が見られたが、全体的に何でもよく食べる事が出来るようになる。苦手な物でも励まされると食べる事ができる。お代わりをしてよく食べる姿が見られる。

睡眠・・寝つくのに時間が掛かる児の姿が見られ、早くに目が覚める児の姿が見られる。一対一ではないと寝つけない児の姿が見られる。

排泄・・尿や便が漏れる児の姿も見られるが、自らトイレへ行く児の姿が見られる。

着脱・・自分のカゴから着替えを取り出し、自分で着替える姿が見られる児もいれば、一対一でつかないと着脱が難しい児の姿もある。

＜遊び＞

外遊び・・遊びが続かない児の姿も見られる。ログハウスの中に入って遊び、砂場でごちそう作りや、虫探し、鬼ごっこやかくれんぼをして遊ぶ児の姿が見られる。

散歩・・　天気の良い日には運動公園へ行ったり、古志原公園や行ったりと、沢山出掛けた。後半は運動公園へたくさん出掛け、たくさん歩けるようになり、遠回りをして歩く事ができた。自然物を採り、散歩バックの中に入れ、持ち帰る姿が見られる。かくれんぼをしたりしながらみんなで楽しんで散歩をすることができた。後半はよく歩けるようになる。

絵・・　意味付けをしながら楽しんで描く姿が見られる。後半はマジックを使って絵を描いたがみんな楽しんで描いていた。

仲間・・　友だち同士の関わりも多くみられるようになり、気が合う友だちと一緒に遊ぶ姿が見られた。小さい児を可愛がる姿も見られた。

＜認識＞　保育士が伝えたことを行動に移すことができる児もいれば、一対一で丁寧に話をしないと通じない姿がある。

＜リズム＞運動会後からリズムを良くするようになる。その日の気分によってリズムに参加したりしなかったりする姿が見られる。

＜保護者支援＞連絡ノートや口頭で丁寧に保護者に伝えるようにした。
児の成長を保護者と共に喜ぶ。

＜評価　反省＞一人ひとりの姿を見て、丁寧に関わっていくようにした。
トラブルになると手が出る児の姿も見られたが、口で友だちに伝える事ができるようになる児が増えた。

男児（2歳：知的障害児）　年間総括

こばと小規模保育園

年間目標・・◎安心して園生活を送り、仲間と一緒に楽しく過ごす。
◎身の回りのことを保育士に手伝ってもらいながら自分でしようとする。

＜生活＞

食事・・きのこや納豆、里芋が苦手だったが食べる事ができるようになり、何でもよく食べるようになる。お代わりをして食べる。

睡眠・・布団へ入ってからも他児と遊ぶ姿が見られる。寝付くのに時間が掛かっていたが、今では一人でも寝付くことが出来るようになる。

排泄・・尿や便が漏れるときもあったが、トイレで尿や便が出来る。尿意を感じると自らトイレへ向かう姿が見られる。

着脱・・初めの頃は保育士にパンツやズボンを持って来て保育士に見守られながら着たり履いたりしていたが、後半は自分でかごから服やパンツを出して、自分で着脱をすることができるようになる。

＜遊び＞

外遊び・・一人でログハウスの中に入って、おままごとをしたり、砂場で遊ぶ姿が見られる。他児と一緒に遊ぶ姿も見られる。

散歩・・　縁石に登ったり、ストライキを起こしたりする姿が見られていたが、後半はストライキも減り、よく歩くようになるが、疲れてくるとしゃがみこんだり歩くスピードが遅かったりする姿が見られる。テンションが高くなると指示が通らなくなることがある。

絵・・　最初は意味付けをしなかったが、意味付けして描くようになる。

仲間・・　気の合う児ができ、一緒に遊ぶ姿が見られる。他児の言ったことや行動を真似する。

＜認識＞　保育士が伝えた事を理解している時もあるが、時々保育士が伝えた事がわからない姿もあった。

＜リズム＞楽しんでリズムに参加する時もあったが他児につられて遊び始める事もある。ジャンプをする時には柵に手を掛けてジャンプする姿が見られる。

＜保護者支援＞丁寧にその日の様子を口頭で伝え、連絡ノートで伝える。
児の成長を共に喜ぶ。

＜評価　反省＞年度当初は切り替えに時間が掛かっていたが、切り替えに時間が掛かることも減り、自分で切り替えが出来るようになる。
体験したことやその日に経験したことなど保育士に言葉で伝える事ができるようになり、児の発した言葉に耳を傾けるようにした。

2022年度　苦情受付

番号	受付月日	相談者	苦情・要望内容	解決状況
1	5月23日	ご近所	散歩中庭先で猫を見ていたところへ犬の散歩から帰って来られ、「ここは遊び場ではない」「車がUターンするし（子どもを指差して）引かれるよ」と言われる。	職員間で事例についての話し合いをもつ。 確認事項を共有する。 園長、担任で謝罪に行く。 職員間で話し合い決め事を伝える。
2	5月25日	つばめ組保護者	保護者より市役所へ電話をする。 土曜日希望保育をお願いしたら、申請書を出してくれと言われた。 平日も利用しているのに腑に落ちない。 利用内容、時間も書かなくてはいけないのは何故か。	市役所より園に電話があり内容を聞かれ説明する。 園から聞いた事を保護者にも伝えてもらう。 職員会で事例について話し確認しあう。 降園時に保護者に話す。
3	9月14日	ひよこ組保護者	股に砂がついたままだった。 お風呂の時に気がついた。 きれいに洗ってほしい。	職員に事例報告・丁寧に洗うよう確認しあう。 保護者にお詫びをする。 職員間で話し合った事を伝える
4	2月10日	ひよこ組保護者	苦情メールがこばと保育園に届く。 園児を呼び捨てで呼んでいる。 園の方針としてはどう考えているか。 子どもも同じように敬称をつけて呼んでほしい。	すぐに職員間で話し合いをもつ。 こばと保育園園長よりメールで返信する。 こばと保育園、小規模保育園連名で保護者に手紙を配布する。 親が呼んでいる呼び方で呼ぶ。 「ちゃん」「くん」づけで呼ぶようにする。 どんなふうに呼んであげればいいか聞く。